地　尻　Ⅲ　遺　跡

ー安中住宅団地分譲に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ー

2009

群馬県安中市教育委員会

地　尻　Ⅲ　遺　跡

ー安中住宅団地分譲に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ー

2009

群馬県安中市教育委員会

地尻Ⅲ遺跡全景

（地図は発掘調査当時のものである。）

0　200m

第１図　地尻Ⅲ遺跡位置図

序

平成18年３月に旧安中市と旧松井田町が合併し新たに安中市としてスタートしました。安中市は群馬県西部に位置し、市のほぼ中央を碓氷川が西から東へ流れています。ここは古来から東山道や中山道が通る交通の要衝です。明治 26 年には信越本線が碓氷峠を越えて長野県軽井沢へと繋がりましたが、残念ながら平成９年には碓氷峠の区間は廃止となりました。しかし、国道 18 号線や上信越自動車道、北陸新幹線などで長野県へ繋がる交通の要衝であることに変わりはありません。

さて、安中という地名は、戦国時代の永禄２年（1559）に安中忠政が野後に城を築き自らの姓にちなんで地名を野後から安中に改めたことに由来するといわれています。すなわち、今年は安中という地名が誕生してから 450 年目にあたります。安中忠政が築いた安中城（中世安中城）は国道 18 号線の北側に九十九川に突き出るような高台（太郎兵衛屋敷）を本丸としていたといわれています。戦国時代末に廃城になり農地となっていましたが、慶長 19 年（1614）に井伊直勝が彦根から安中にきて安中城を再建し（近世安中城）、安中宿の町並みを整えました。

今回、報告する地尻Ⅲ遺跡は近世安中城の西約 500 ｍのところに位置します。ここに安中市土地開発公社が住宅団地を分譲することになり、事前に発掘調査したものです。ここからは奈良・平安時代の住居址や溝などが見つかりました。地尻Ⅲ遺跡は北方に存在する植松・地尻遺跡に関連すると考えられます。植松・地尻遺跡からは大規模な掘立柱建物址や「評」と刻書された須恵器蓋などが見つかっています。大規模な掘立柱建物址群は７世紀後半から９世紀にかけてのものとみられます。地尻Ⅲ遺跡は植松・地尻遺跡の南約 100 ｍに位置し、その区画ではないかと推測される溝（Ｍ－７号溝）もあります。このように遺跡は私たちの先祖の残した遺産であり、郷土の歴史として後世に継承していくべきものです。この報告書が郷土の歴史の学習や研究に活用されれば幸いです。

また、最後に発掘調査に従事していただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

平成 21 年 12 月

安中市教育委員会
教育長　中澤四郎

例　言

1．本書は安中市土地開発公社が実施した安中住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘報告書である。

2．発掘調査を実施した遺跡は地尻Ⅲ遺跡であり、遺跡略称はD－16である。

3．地尻Ⅲ遺跡は、安中市安中二丁目字地尻2496－1・2506－1・2497－1に所在する。

4．確認調査は平成12年度国庫補助金及び県費補助金の交付を受けて行った。また、本調査及び遺物整理は安中市土地開発公社からの委託金により実施した。

5．確認調査は、平成12年8月21日～8月28日までの間実施し、本調査は同年9月4日から9月20日まで実施した。また、遺物整理は発掘調査終了後から平成21年11月までの間断続的に実施した。

6．確認調査は安中市教育委員会が直営で行い、社会教育課文化財係主事深町真（当時）が実施した。本調査は安中市埋蔵文化財発掘調査団が直営で行い、同発掘調査員深町が担当した。

7．遺構平面図の作成は、深町、伊田百合子、高瀬敦子、築井美佐子、戸塚里子、萩原光江、平出紀子、吉澤栄子、丸岡民子が行った。また、遺構図のトレースは深町が行った。

8．遺物整理は深町が中心になって行った。土器の実測・トレースの一部は有限会社　前橋文化財研究所に委託した。

9．本書の編集は深町が行った。執筆はⅠ～Ⅴまでを深町が、Ⅵを株式会社　古環境研究所が行った。

10．遺構等の現場撮影は深町が行い、航空写真及び遺構実測用航空ビデオの撮影はフジテクノ株式会社に委託して実施した。

11．発掘調査における記録、出土遺物はすべて安中市教育委員会で保管している。

12．発掘調査及び整理作業従事者

吉田和雄、漆原高司、矢島柳子、戸塚里子、横塚松枝、伊田百合子、高瀬敦子、築井美佐子、萩原光江、平出紀子、吉澤栄子、丸岡民子

凡　例

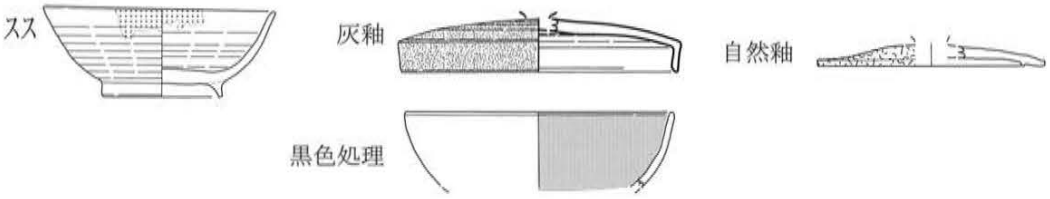
1　遺構実測図は1／80を基本としている。

2　遺構図中の北マークは磁北を示している。

3　遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

土師器、須恵器、布目瓦：1／4　　古銭：1／1

4　遺物実測図中のトーンは以下のことを示す。



5　土器実測図中にあるマークは次の意味を示す。

●：須恵器　○：土師質土器　☆：自然釉　★：灰釉

6　土層説明中での記号、略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』による。

色調　＜：より明るい方を示す（暗＜明）

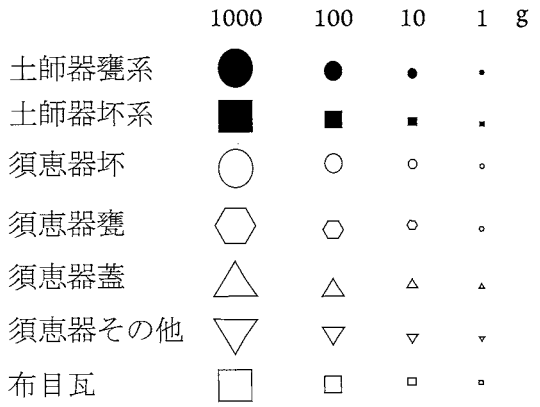
しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし

混入物の量　◎：大量（30 ～ 50 %）　○：多量（15 ～ 25 %）　△：少量（5 ～ 10 %）　※：若干（1 ～ 3 %）

混入物　ＲＰ：ローム粒子（溶け込んだ状態）　ＲＢ：ロームブロック（固まりの状態）　ＹＰ：板鼻黄色軽石

7　ピットの深さ　0 ～ 19 ｃｍ　20 ～ 39 ｃｍ　40 ～ 59 ｃｍ

8　遺物重量分布中の記号の意味は次のとおりである。



9　挿図中のＰは土器（土師器、須恵器）、Ｓは石器及び礫を表す。

10　本報告書収録の遺構の内、調査時の遺構名と変更している遺構は下記のとおりである。

調査時		報告書
Ｈ－１号住居址	→	Ｔ－２号竪穴状遺構
Ｈ－２号住居址	→	Ｔ－３号竪穴状遺構
Ｈ－７号住居址	→	Ｔ－４号竪穴状遺構
Ｈ－８号住居址	→	Ｔ－５号竪穴状遺構
Ｈ－14号住居址	→	Ｔ－６号竪穴状遺構
Ｈ－15号住居址	→	Ｔ－７号竪穴状遺構

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
I　調査の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1　調査に至る経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
II　調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1　発掘調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（1）調査の方針と目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（2）調査区・グリッドの設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（3）遺構の調査方法・記録方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2　遺物整理の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（1）遺物整理の方針と目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（2）遺構の記載の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ~~4~~ 2
（3）遺物の記載・分析の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
III　遺跡の地理的・歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
1　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3　基本的層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
IV　遺構・遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
1　遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
2　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
V　成果と問題点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
1　地尻III遺跡で出土した土器の編年について ・・・・・・・・・・・・・・ 38
2　地尻III遺跡の性格について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
VI　安中市地尻III遺跡の火山灰分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
発掘調査報告書抄録・奥付

Ⅰ　調査の経緯

１　調査に至る経過

平成12年４月28日に安中市土地開発公社事務局長から、安中市安中二丁目字地尻2496－１外２筆に計画されている（仮称）安中住宅団地分譲事業に関する問い合わせが、市教育委員会にあった。事業予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、遺跡が存在する可能性が高いので、確認調査を実施して遺跡の存在の有無を確認する必要がある旨を５月１日に回答した。

平成12年８月21日～28日に住宅団地分譲事業予定地内に南北に予定されている道路について確認調査を実施したところ、道路予定地の北寄りに奈良・平安時代の住居址や溝、土坑等の遺構が分布している状況を確認できた。これらの遺構を回避することを検討したが、事実上困難なので、引き続き本調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

２　調査の経過

本調査は平成12年９月４日～９月20日まで延べ16日間実施した。９月18日に遺構実測用航空写真撮影を実施した。９月19日～20日まで遺構実測図の作成および遺構測量を実施した。９月20日に現地から機材をすべて運び出し発掘調査を終了した。

図面整理・遺物整理は調査終了後から平成21年までの間、断続的に実施した。

Ⅱ　調査の方法

１　発掘調査の方法

（１）調査の方針と目的

今回の発掘調査は主に道路部分が中心であるが、重要な遺構（Ｍ－４号溝）がある北部分については調査区を拡大した。確認調査の時点で遺構の主体が奈良・平安時代であることがわかったので、遺構確認面をＩｂ層直下もしくはⅢ層上部に設定した。

（２）調査区・グリッドの設定

グリッドは、道路の中心杭を基準とし、その他の点は本市で採用している単位・呼称を用いた。すなわち、４ｍ×４ｍを基準単位とし、東西方向を算用数字、南北方向をアルファベットで呼称するというものである。

（３）遺構の調査方法・記録方法

本調査における遺構の調査方法は第１表のとおりである。これらのうち分層16分割法やビニール転写方式、ビデオ利用方式といった方法は、昭和63年度から実施された中野谷地区遺跡群の調査から導入したものである。

グリッド杭設定	直営				
表土掘削・除去	バックホー				
遺構確認	ジョレン				
遺構精査・掘削	移植ゴテ ねじり鎌 竹箆	移植ゴテ ねじり鎌 竹箆	移植ゴテ ねじり鎌 竹箆 芋掘り用突き	移植ゴテ ねじり鎌 竹箆	移植ゴテ ねじり鎌 竹箆
遺物取り上げ法	分層16分割法	一括	一括	２ｍ毎に分割	グリッド
遺構平面図	ビデオ利用方式（一部ビニール転写方式）				
遺物分布図	デジタル方式	なし	なし	なし	なし
土層断面図	ビニール転写方式				
遺構断面図	図面起こし	ビニール転写方式			
遺構写真	地上写真	リバーサル（35mm）　モノクロ（35mm）			
	航空写真	リバーサル（35mm）、モノクロ（35mm、６×4.5）			

第１表　作業工程一覧表

２　遺物整理の方法

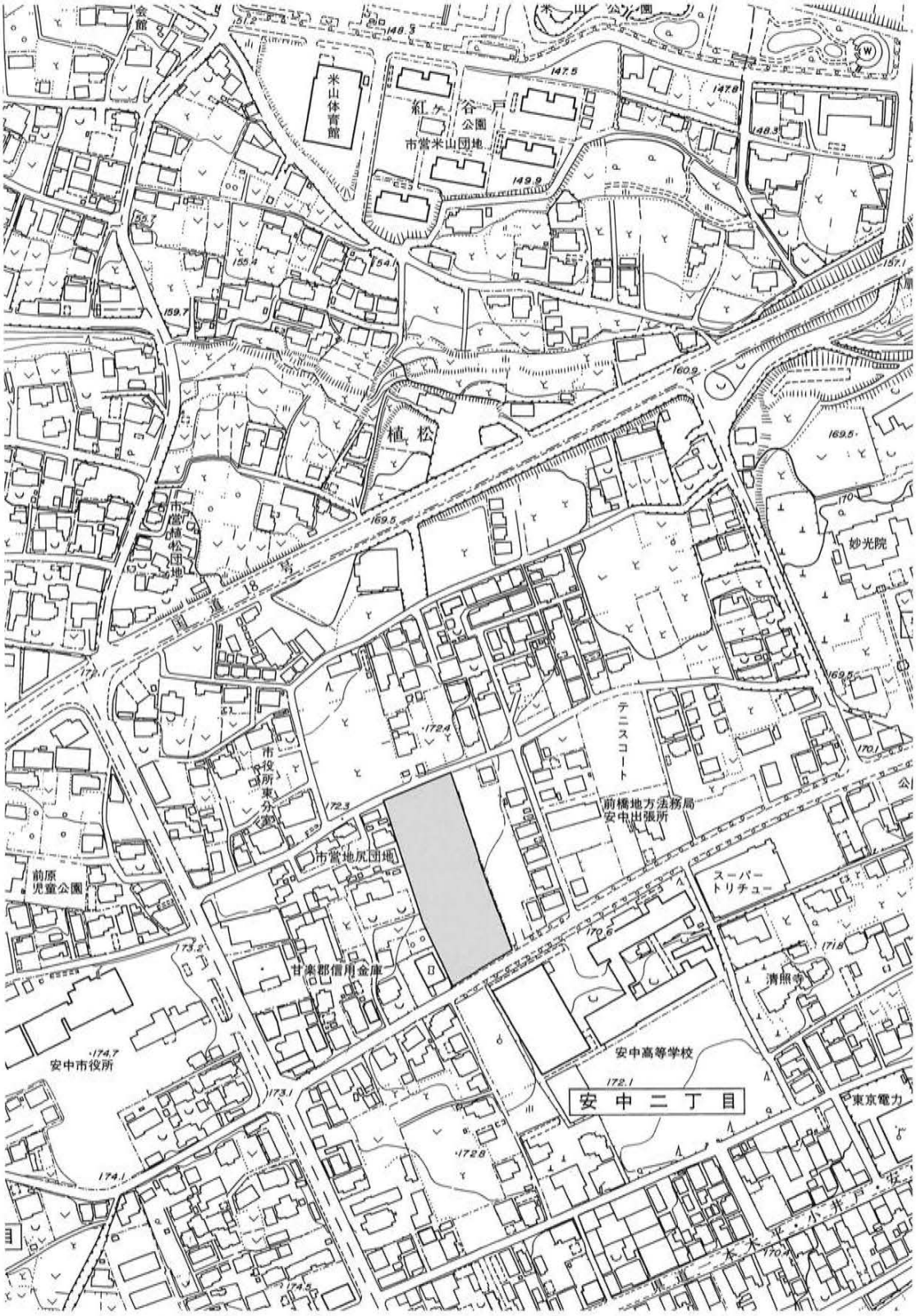
（１）遺物整理の方針と目的

今回の発掘調査で調査したのは奈良・平安時代の集落の一部であるので、集落の全体像を復元するためには断片的なものである。したがって、分析の対象は住居址や溝といった遺構単位となった。

（２）遺構の記載の方法

住居址は平面図・土層断面図・遺構断面図・遺物分布図・写真・調査時の所見等を総合的に判断し、図版を作成した。住居址に重複・同一場所建て替えがある場合、土層堆積状態から新旧関係の確認に努めた。時期の決定は床直遺物、最下層遺物、竈出土遺物を総合的に検討して決定した。図版としては、住居址平面図・住居址遺物分布図（デジタル方式）・住居址土層断面図・住居址遺構断面図・竈土層断面図・土層観察表・住居址観察表を掲載した。

また、竪穴状遺構、土坑、集石土坑、ピット群、溝については住居址に準じ、平面図・土層断面図・土層観察表・遺構観察表を掲載した。



（地図は発掘調査当時のものである。）

0　100m

第２図　地尻Ⅲ遺跡調査区設定図

（３）遺物の記載・分析の方法

地尻Ⅲ遺跡では土師器、須恵器、布目瓦、古銭が出土した。土師器・須恵器は、基本的に同一遺構内での遺物の共存関係に注目して器種別に分類を行い、中尾編年（坂口・三浦 1986）や矢田編年（中沢 1997）により時期決定を行った。その際、なるべく完形に近いものを選んで実測したが、他に遺物がない遺構では破片的な遺物を実測した。また、須恵器坏や高台付碗では底部の拓本を添付した。一方、布目瓦や古銭は表裏の拓本を添付した。最後に、実測した遺物については遺物観察表を掲載した。

Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

１　地理的環境

安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。碓氷峠を水源とする碓氷川が安中市のほぼ中央を流れているが、郷原付近では北西から南東に流れてきた碓氷川は磯部温泉付近で向きを変え、南西から北東に流れている。碓氷川の北側には、ほぼ平行して九十九川が流れ、途中で増田川、後閑川、八咫川、秋間川などの河川と合流しながら、中宿で碓氷川に合流する。この碓氷川と九十九川の流域には河岸段丘が発達している。碓氷川流域を見ると、上位段丘（西横野・東横野・大竹の南部）、中位段丘（安中・原市）、下位段丘（二軒在家・人見の北部、西上磯部、東上磯部、下磯部、大竹の北部、下野尻）が存在する。このうち、碓氷川中位段丘（安中・原市台地）西部には横川から松井田へと伸びる丘陵の末端が存在し、九十九川の支流である八咫川はここに源を発し、安中・原市台地の西部を西南から北東へ流れており、安中・原市台地に開析谷を形成している。

さて、本遺跡の存在する安中字地尻は、安中・原市台地（中位段丘）上に位置する。安中・原市台地（中位段丘）は郷原から東に緩傾斜しているが、安中城跡の東側が台地東端となっていて段丘崖を形成している。安中城は安中・原市台地東端の段丘崖と九十九川の崖を利用して造られた。また、この安中・原市台地の段丘崖を利用して中世に安中城以外にも城館がいくつか造られた（菅沼城、滝山城、簗瀬城、八幡平陣城など）。

次に本遺跡の立地を観察する。本遺跡は九十九川が形成した段丘崖からやや南に存在している。九十九川の段丘崖付近には植松・地尻遺跡が位置する。また、本遺跡の北側付近が高く、南側に向けてなだらかに低くなっており、都市計画道路下野尻・茶町線付近が最も低くなっている。都市計画道路の南側では、またなだらかに高くなり、旧中山道（旧国道）の通るところが一番高くなっていて、旧中山道の南側100ｍほどのところが碓氷川の段丘崖となっている。なお、本遺跡の標高は172～171.1ｍであり、北側の九十九川の低地との比高は25ｍである。

	遺跡名	旧	縄文					弥生			古墳				奈良	平安	中世	近世
			草	早	前	中	後	晩	前	中	後	前	中	後	終				
1	地尻Ⅲ遺跡																◎	○	
2	植松・地尻遺跡					△			△					◎	◎	◎	○		
3	地尻遺跡					△											○	△	△
3	地尻Ⅱ遺跡																	△	
4	西町・谷津遺跡				※	※	※											△	
5	中世安中城本丸																	◎	
6	近世安中城本丸																		◎
7	稲荷神社古墳													◎					
8	綜覧安中町7号墳													◎					
9	城下古墳													◎					
10	安中内出																	◎	
11	安中内出遺跡																◎		
12	遠丸石															△	△	△	
13	愛宕神社古墳													◎					
14	上野尻遺跡															△	△	△	
15	七曲古墳													◎					
16	綜覧安中町6号墳													◎					
17	給人畑3号墳													◎					
18	並木西古墳													◎					
19	給人畑6号墳													◎					
20	給人畑2号墳													◎					
21	給人畑4号墳													◎					
22	給人畑5号墳													◎					
23	並木遺跡																◎		
24	綜覧安中町17号墳													◎					
25	めおと塚古墳														◎				
26	綜覧安中町13号墳													◎					
27	綜覧安中町10号墳													◎					
28	綜覧安中町11号墳													◎					
29	綜覧安中町9号墳													◎					
30	綜覧安中町8号墳													◎					
31	野殿北屋敷																	○	△
32	西殿遺跡				※										○	○	○		
33	堀谷戸遺跡				※		※							○	○	◎	◎	△	

◎　住居5軒以上・古墳・記念物　　○　住居5軒以下・大溝・水田・畑など
△　遺構有り（土坑・溝など）　　※　遺物のみ

第2表　地尻Ⅲ遺跡周辺の遺跡

2　歴史的環境（第4図、第2表）

旧石器時代の遺跡は現在のところ本遺跡の周辺では調査されていない。

縄文時代の遺跡としては、地尻遺跡で縄文時代前期中葉の土坑が2基（D－1・2号土坑）検出された。西町・谷津遺跡からも縄文土器が出土した。また、植松・地尻遺跡からも縄文時代中期の土坑（D－29号土坑）が検出され、草創期の有舌尖頭器が出土した。西

殿遺跡や堀谷戸遺跡から縄文土器・石器が出土した。

次に、本遺跡の周辺にある古墳としては稲荷神社古墳（総覧安中町４号墳）や愛宕神社古墳（総覧安中町５号墳）、総覧安中町７号墳、および総覧安中町６号墳、及び給人畑古墳群などが分布している。また、安中字給人畑には明治期の『安中郷土誌』によれば現在よりも数多くの古墳が存在したと推定される。九十九川の左岸の小間にも総覧安中町17号墳、総覧安中町８号墳～11号墳、総覧安中町13号墳、めおと塚古墳（総覧安中町14号墳）が分布する。古墳時代の集落としては植松・地尻遺跡から古墳時代後期の住居址７軒を検出した。野殿西殿遺跡からは古墳時代後期～飛鳥時代の住居址５軒を検出した。野殿堀谷戸遺跡からは古墳時代後期～飛鳥時代の住居址29軒を検出した。

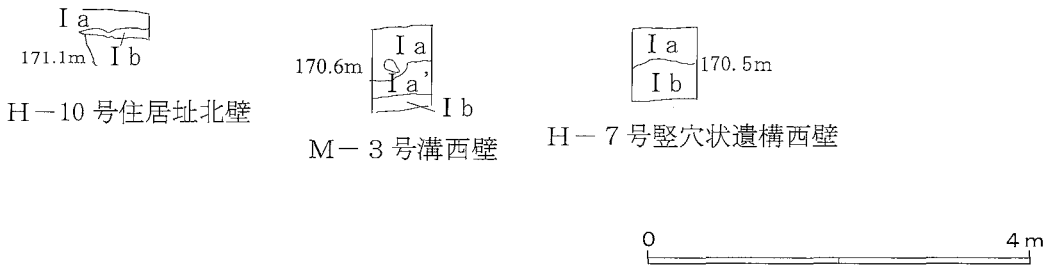
飛鳥時代～平安時代にかけて、植松・地尻遺跡から碓氷郡衙あるいは野後駅家と推測される大規模掘立柱建物群が検出された。遺物では「評」と刻書された須恵器蓋や銅製巡方などが出土している。植松・地尻遺跡は本遺跡の北方約100ｍに位置しており、何らかの関連があると考えられる。

平安時代の遺構としては地尻遺跡から住居址２軒を検出した。また、植松・地尻遺跡から住居址４軒、野殿西殿遺跡から住居址４軒、野殿堀谷戸遺跡から住居址７軒を検出した。一方、中宿在家遺跡、中宿在家Ⅱ遺跡からはＡｓ－Ｂ軽石直下の水田址が検出されている。

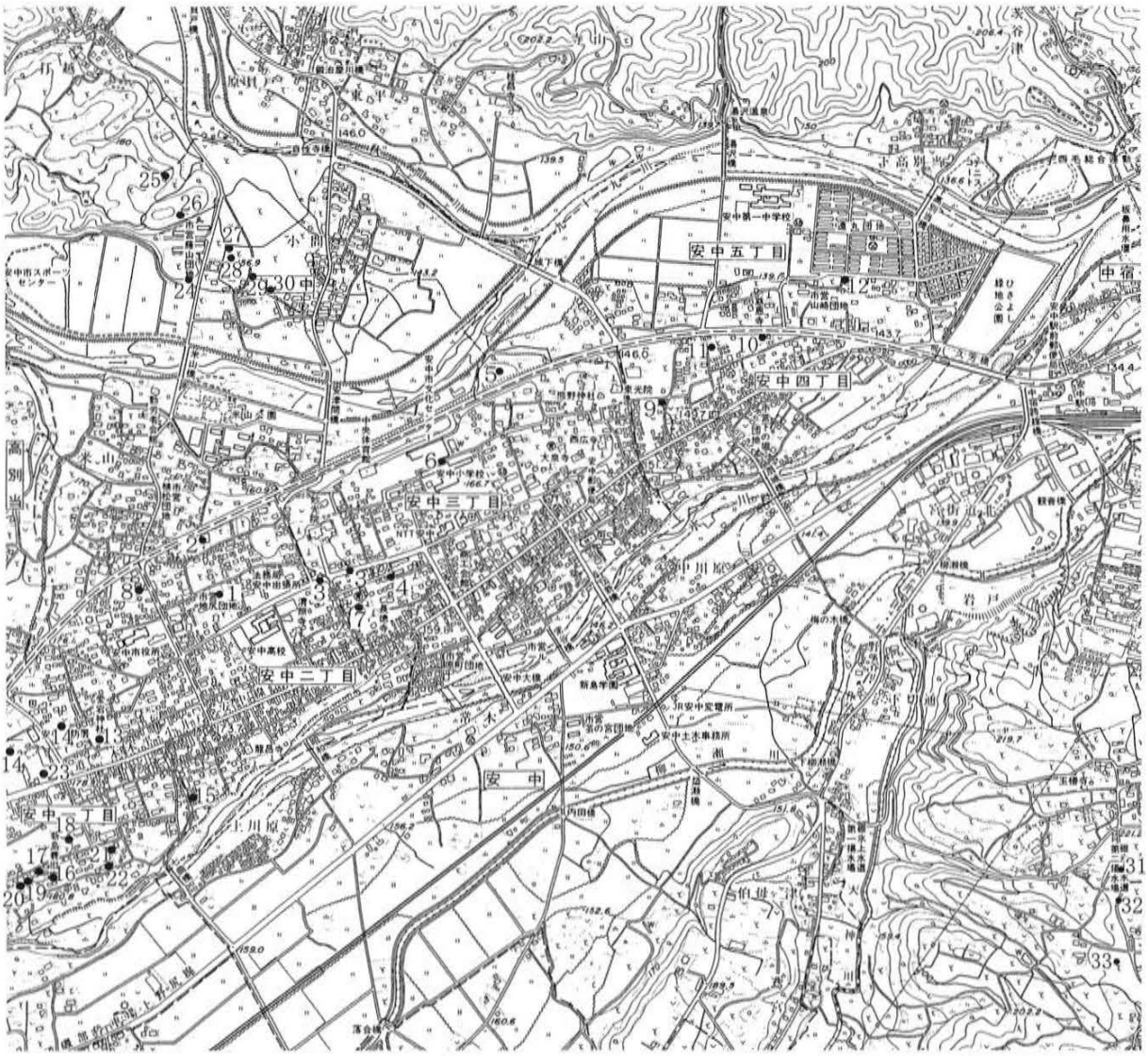
中世の遺構としては地尻遺跡と西町・谷津遺跡から堀が検出されている。この堀は中世安中城に関連するものであると推定される。また、地理的環境で述べたように、室町時代以降、九十九川の段丘崖に寄るようにして中世安中城、安中内出といった城館が築かれた。

３　基本的層序（第３図）

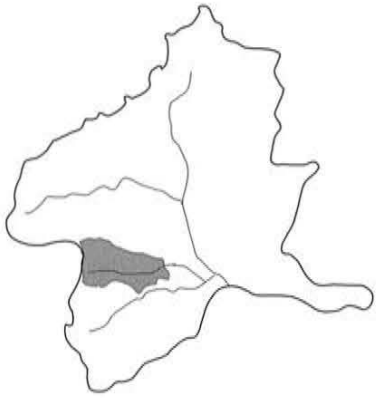
地尻Ⅲ遺跡の土層堆積は、浅間Ａ軽石（Ａｓ－Ａ）の混入するＩａ層の下から遺構が検出された。このＩａ層は南ほど厚く堆積しており、調査区の一番北のＨ－ 10 号住居址では約 10 ～ 20 ｃｍほどであるが、Ｈ－９号住居址では約 80 ｃｍほど堆積していた。

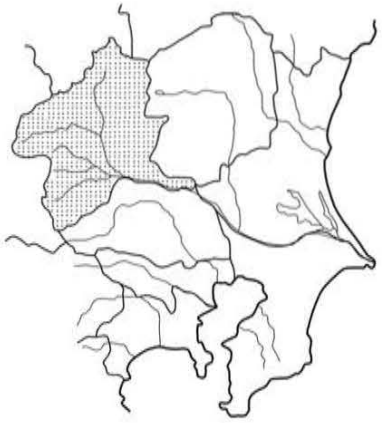


第３図　基本土層図

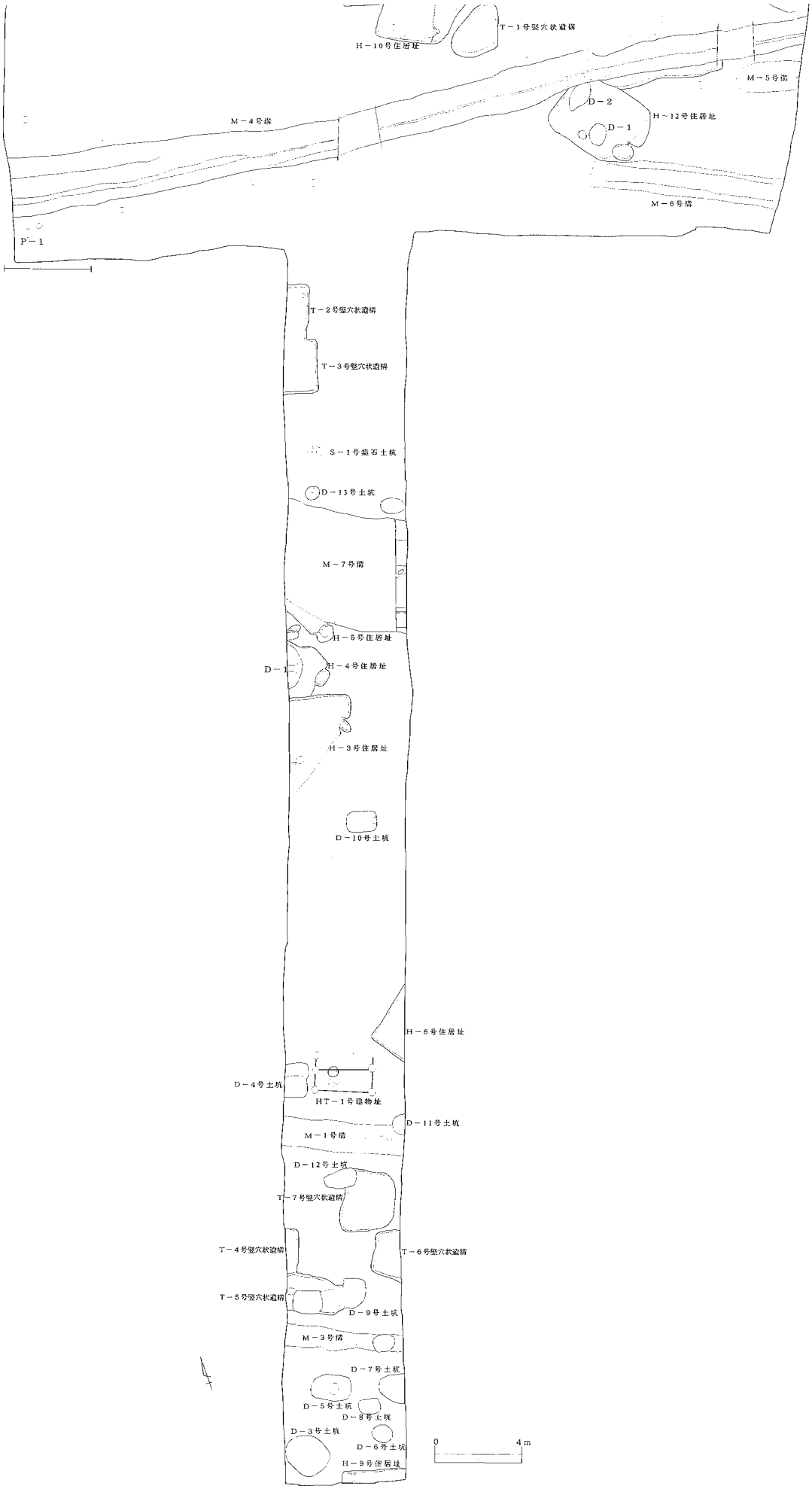


（地図は発掘調査当時のものである。）





第４図　地尻Ⅲ遺跡周辺の遺跡



第５図　地尻Ⅲ遺跡全体図

Ⅳ　遺構・遺物

1　遺構

遺構としては、竪穴住居址８軒、平地式建物１棟、竪穴状遺構７、溝５条、土坑 12 基を検出した（第５図）。

［住居址］

Ｈ－３号住居址（第６図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。住居址の東側に竈が構築されている。竈は粘土で構築されていた。北側でＨ－４号住居址と重複する。

遺物出土状態（第７図）　遺物は土師器、須恵器、布目瓦が出土したが、土師器のほうが多い。出土の傾向としては竈およびその北側が多い。土師器、須恵器は完形品がなく破片が多いことから廃棄されたものと考えられるが、布目瓦は混入したものと考えられる。

Ｈ－４号住居址（第６図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。柱穴は確認できなかった。住居址の東側に竈が構築され、竈の西側に貯蔵穴が設けられていた。竈は粘土で構築されていた。南側でＨ－３号住居址と重複する。

遺物出土状態（第７図）　遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器のほうが多い。竈およびその西側が多い。廃棄されたものと考えられる。

Ｈ－５号住居址（第６図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。柱穴は確認できなかった。南東端に竈が構築されていた。竈は粘土で構築されていた。住居址の北側でＭ－７号溝と重複している。

遺物出土状態（第７図）　遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器のほうが多い。竈周辺で多く出土した。廃棄されたものと考えられる。

Ｈ－６号住居址（第８図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。柱穴や竈は確認できなかった。

遺物出土状態　遺物は土師器、須恵器が出土したが、圧倒的に須恵器が多い。完形品に近いものが多いことから遺棄されたものと考えられる。

Ｈ－９号住居址（第８図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。床面は多少の起伏が認められた。柱穴は１基を確認できたが、主柱穴に当たるかどうかは不明である。竈は確認できなかった。

遺物出土状態　Ｐ－１から土師器、須恵器が出土した。

Ｈ－10号ａ住居址（第９図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。２基の柱穴を確認したが、主柱穴に当たるかどうかは不明である。竈が東辺に粘土で構築されていた。Ｈ－10号ｂ住居址と重複し、これより古いと推定される。

遺物出土状態　Ｈ－ 10 号住居址で出土した遺物のうち、２層で出土した遺物が該当すると推測される。土師器、須恵器が出土したが圧倒的に土師器が多い。

Ｈ－ 10 号ｂ住居址（第９図）

調査区の関係で全体を調査できなかったが、住居の平面形は長方形であると推測される。竈は確認できなかった。Ｈ－10号ａ住居址と重複し、これより新しいと推定される。

遺物出土状態　Ｈ－10号住居址遺物のうち、１層で出土した遺物が該当すると推測される。土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

Ｈ－ 11 号住居址（第９図）

住居址の南西のみを検出した。床面はほぼ水平だった。竈は確認できなかった。Ｍ－４号溝の北側に位置し、Ｍ－４号溝によって南東端を壊されている。

遺物出土状態　遺物は須恵器が出土した。

Ｈ－ 12 号住居址（第 10 図）

住居の平面形は隅丸長方形である。床面はほぼ水平だった。竈が南辺に構築されていた。竈は粘土と石で構築されていた。竈の北側に貯蔵穴が設けられていた。また、北端には床下土坑が設けられていた。北東隅をＭ－４号溝によって、南西隅をＭ－６号溝によって壊されている。

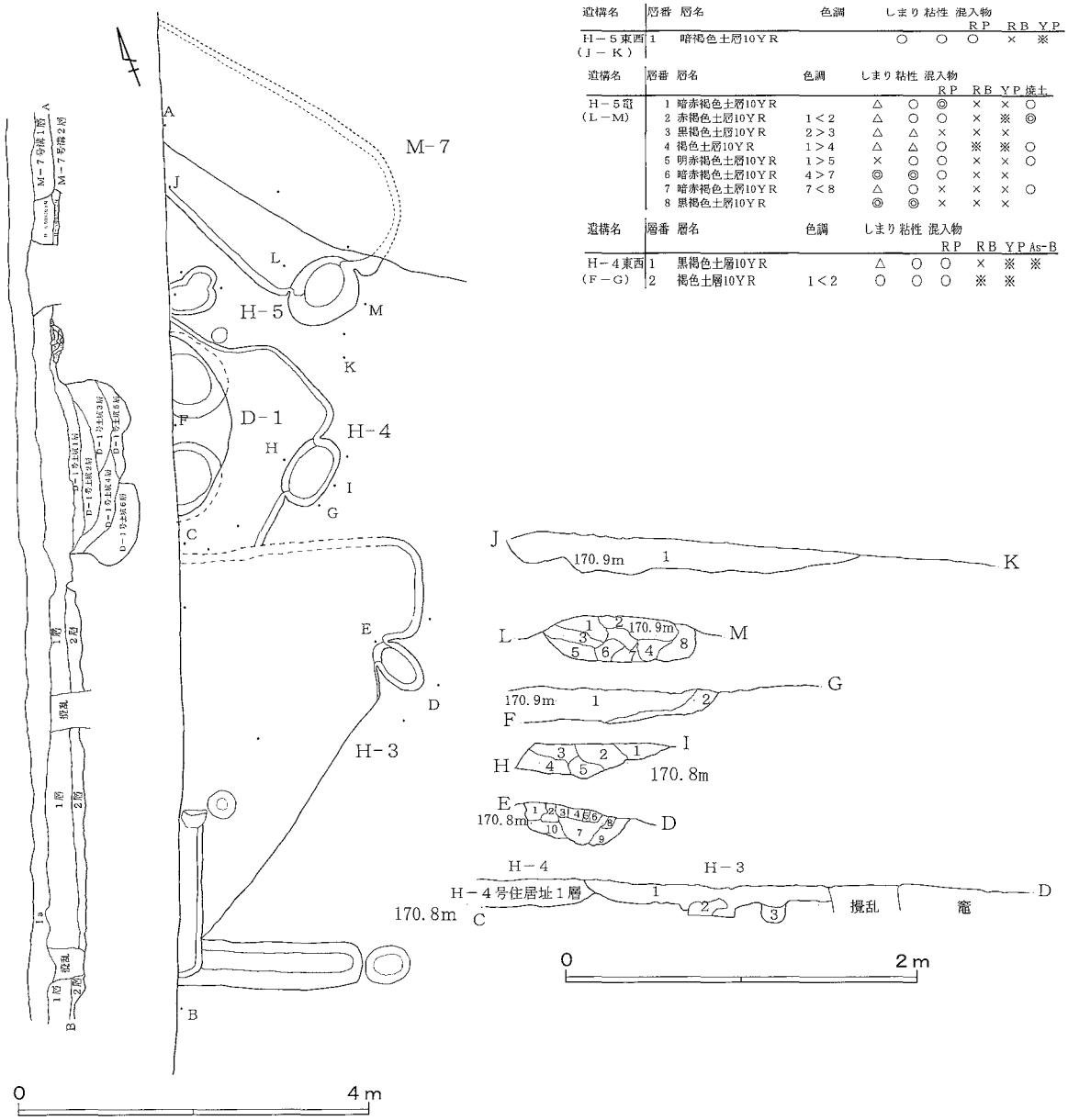
遺物出土状態（第11図）　遺物は土師器、須恵器が出土したが、土師器のほうが多い。遺物は完形品に近いものが多く、遺棄されたものと考えられる。

ＨＴ－１号建物（旧Ｈ－ 13 号住居址、第 11 図）

建物の西寄りに炉と推測される土坑があり、その南に台に使用されたと考えられる石が存在した。西に３基、東に２基のピットがあり、それを柱に上屋をかけていたのではないかと推測したが、北西のピット以外は浅いので疑問も残る。

遺物出土状態　炉の周辺から土師器、須恵器が出土したが、土師器が多い。

Ｈ－３号住居址・Ｈ－４号住居址・Ｈ－５号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｈ－５東西（Ｊ－Ｋ）	1	暗褐色土層10ＹＲ		○	○	○	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
Ｈ－５竈（Ｌ－Ｍ）	1	暗赤褐色土層10ＹＲ		△	○	◎	×	×	○
	2	赤褐色土層10ＹＲ	1＜2	△	○	○	×	※	◎
	3	黒褐色土層10ＹＲ	2＞3	△	△	×	×	×	
	4	褐色土層10ＹＲ	1＞4	△	△	○	※	※	○
	5	明赤褐色土層10ＹＲ	1＞5	×	○	○	×	×	○
	6	暗赤褐色土層10ＹＲ	4＞7	◎	◎	○	×	×	
	7	暗赤褐色土層10ＹＲ	7＜8	△	○	×	×	×	○
	8	黒褐色土層10ＹＲ		◎	◎	×	×	×	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
Ｈ－４東西（Ｆ－Ｇ）	1	黒褐色土層10ＹＲ		△	○	○	×	※	※
	2	褐色土層10ＹＲ	1＜2	○	○	○	※	※	

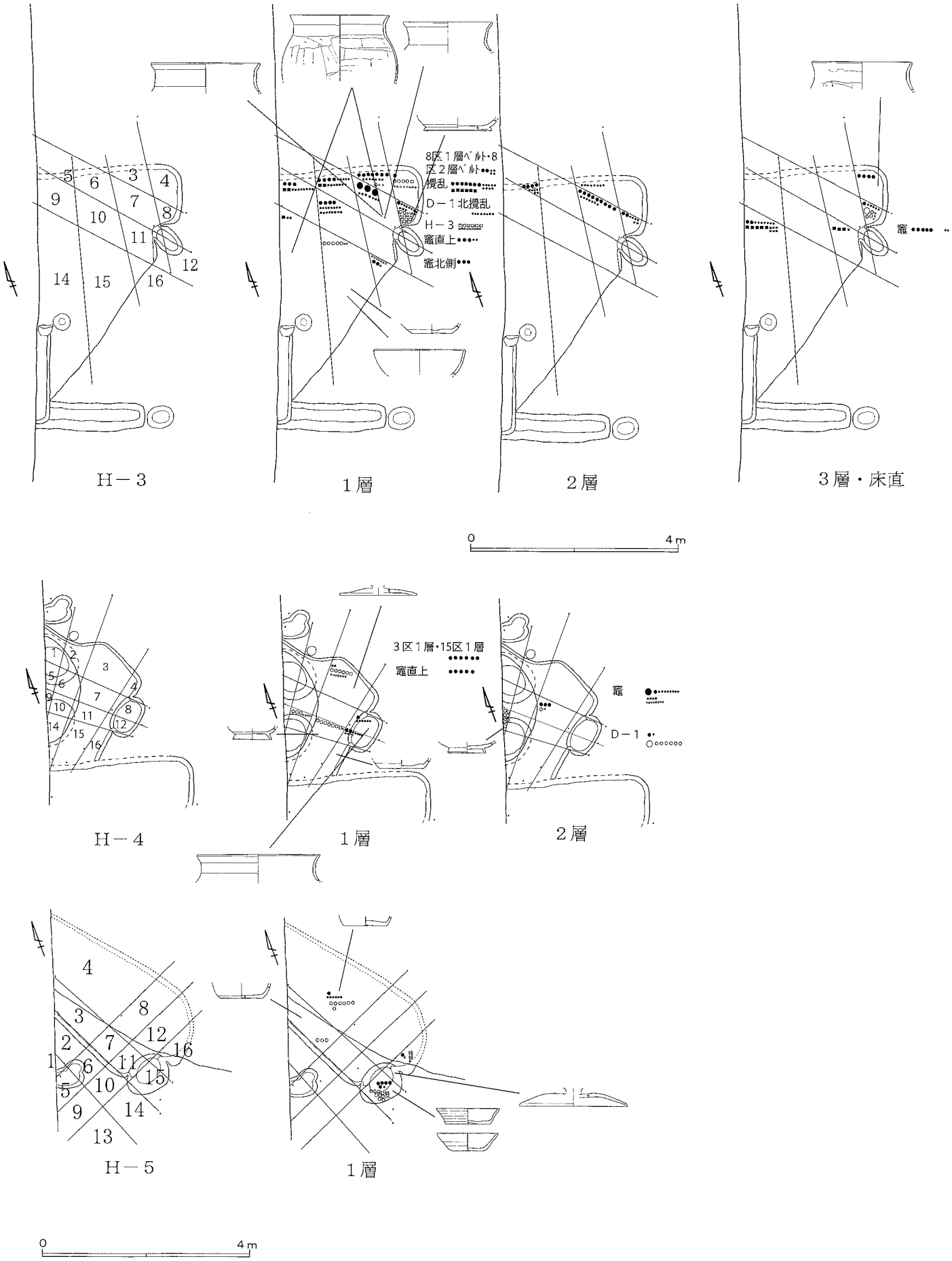
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
Ｈ－４竈（Ｈ－Ｉ）	1	暗赤褐色土層10ＹＲ		○	○	○	×	※	○
	2	明赤褐色土層10ＹＲ	1＜2	◎	○	○	※	※	◎
	3	黒褐色土層10ＹＲ	2＞3	△	○	○	×	×	△
	4	暗褐色土層10ＹＲ	4＜5	△	◎	○	※	※	
	5	にぶい赤褐色土層10ＹＲ		◎	◎	◎	×	×	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｈ－４・Ｄ－１	1a							
	1	黒褐色土層10ＹＲ		○	○	×	※	※
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＞2	△	○	○	※	※
	3	黒褐色土層10ＹＲ	2＞3	○	◎	×	※	※
	4	黒褐色土層10ＹＲ	3＞4	◎	◎	×	※	※
	5	黒褐色土層10ＹＲ	4≒5	△	○	×	※	※
	6	黒褐色土層10ＹＲ	4＞6	△	◎	◎	△	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
Ｈ－３竈（Ｅ－Ｄ）	1	明黄褐色土層10ＹＲ		△	○	◎	×	※	
	2	暗赤褐色土層10ＹＲ	1＞2	○	○	○	×	×	※
	3	褐色土層10ＹＲ	2＜3＜4	○	○	○	×	×	△
	4	明赤褐色土層10ＹＲ	4＞5	△	△	○	×	×	◎
	5	暗赤褐色土層10ＹＲ	5＜6	△	△	○	×	×	※
	6	明赤褐色土層10ＹＲ	6＞7	△	○	○	×	×	◎
	7	暗赤褐色土層10ＹＲ	7＜8	△	△	○	×	×	○
	8	赤褐色土層10ＹＲ	7＜9	○	○	○	×	×	※
	9	暗赤褐色土層10ＹＲ	9＞10	△	○	○	×	×	○
	10	黒褐色土層10ＹＲ		△	○	×	×	×	

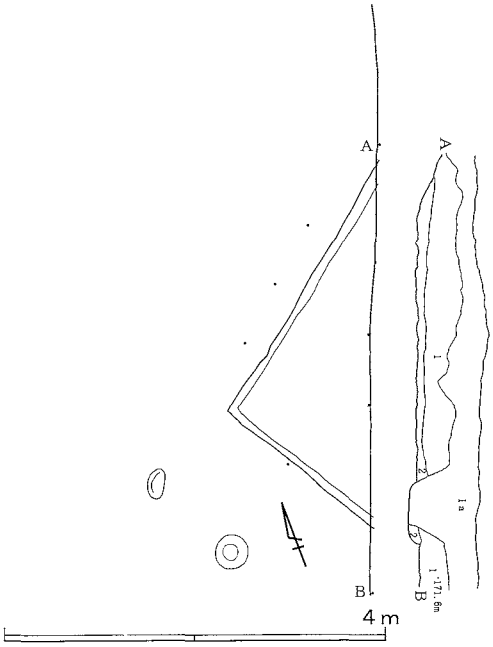
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｈ－３東西（Ｃ－Ｄ）	1	黒褐色土層10ＹＲ		○	○	○	×	※
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＜2	△	○	○	×	△
	3	褐色土層10ＹＲ	1＜3	△	◎	○	×	※

第６図　Ｈ－３・Ｈ－４・Ｈ－５号住居址実測図

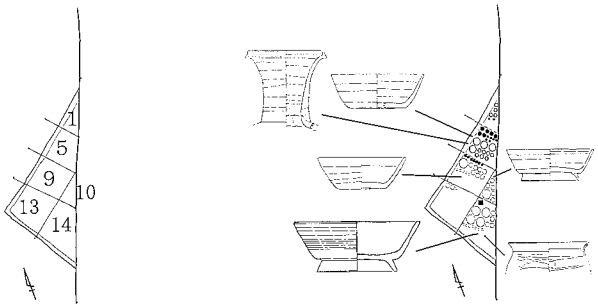


第7図　H－3・H－4・H－5号住居址遺物分布図

Ｈ－６号住居址

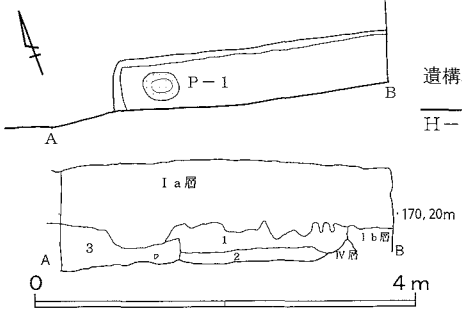


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｈ－６東壁	1	暗褐色土層10ＹＲ		○	○	○	×	※
	2	黒褐色土層10ＹＲ	1＞2	◎	◎	○	×	△



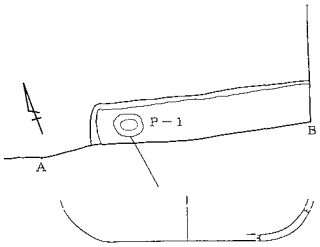
２層

Ｈ－９号住居址



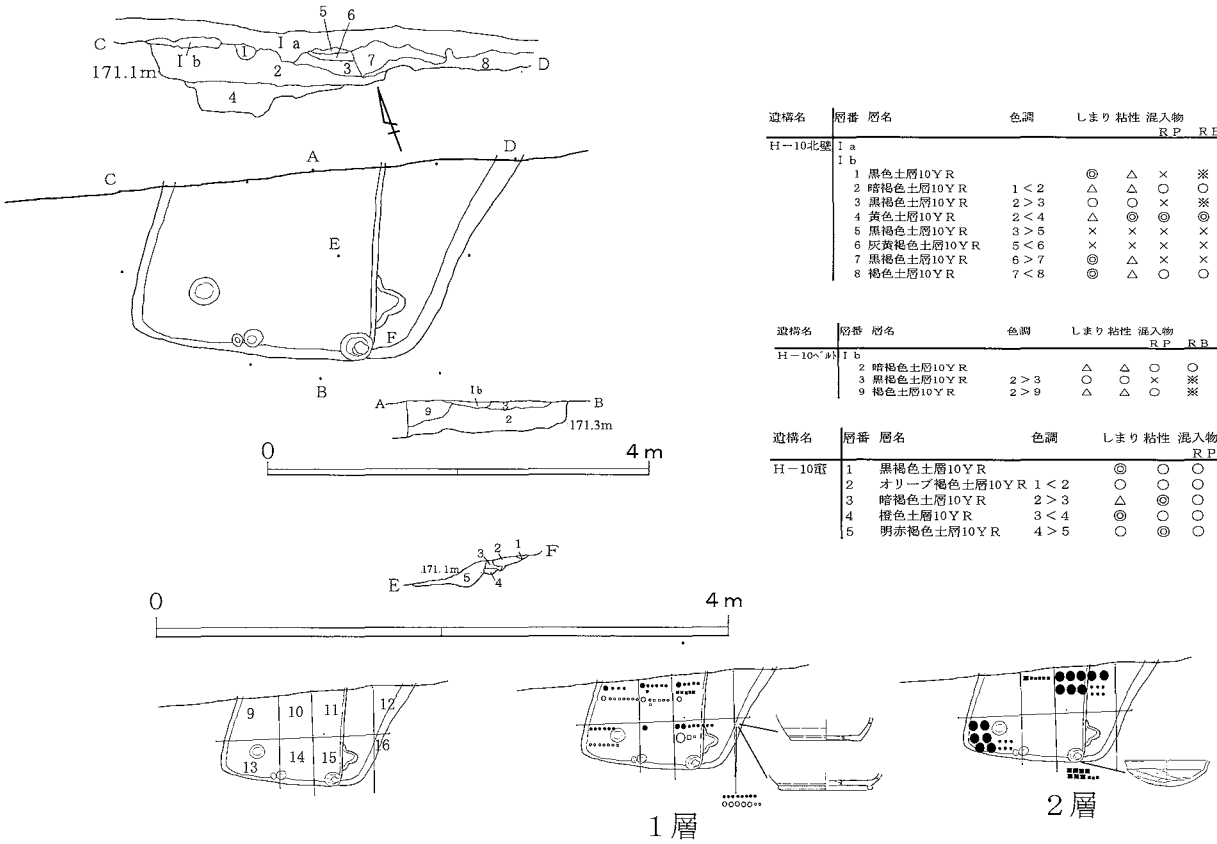
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｈ－９	Ｉａ							
	1	黒褐色土層10ＹＲ		○	◎	○	※	△
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＜2	◎	◎	○	×	△
	3	暗褐色土層10ＹＲ	2＞3	△	◎	○	×	△

P－1



第８図　Ｈ－６・Ｈ－９号住居址実測図

H－10号住居址

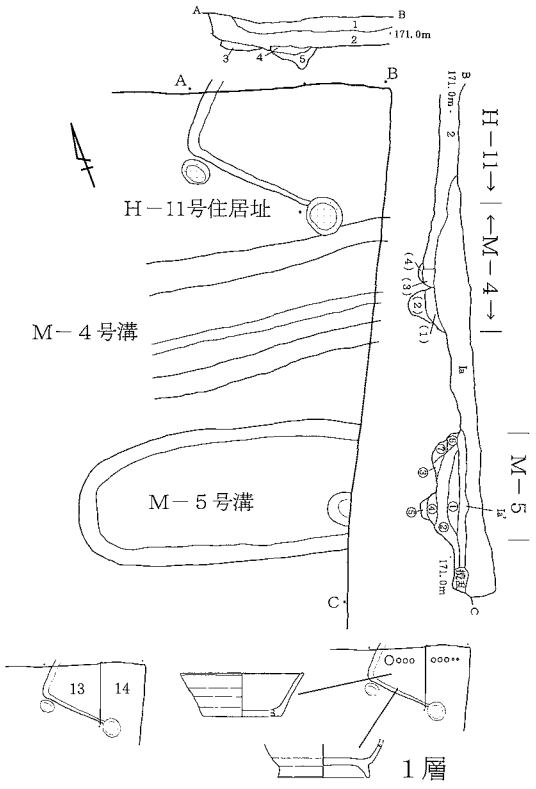


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
H－10北壁	Ⅰa								
	Ⅰb								
	1	黒色土層10YR		◎	△	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	△	△	○	○	△	
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	○	○	×	※	△	
	4	黄色土層10YR	2＜4	△	◎	◎	◎	◎	
	5	黒褐色土層10YR	3＞5	×	×	×	×	×	
	6	灰黄褐色土層10YR	5＜6	×	×	×	×	×	※
	7	黒褐色土層10YR	6＞7	◎	△	×	×	×	※
	8	褐色土層10YR	7＜8	◎	△	○	○	※	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
H－10ベルト	Ⅰb								
	2	暗褐色土層10YR		△	△	○	○	△	
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	○	○	×	※	△	
	9	褐色土層10YR	2＞9	△	△	○	※	※	

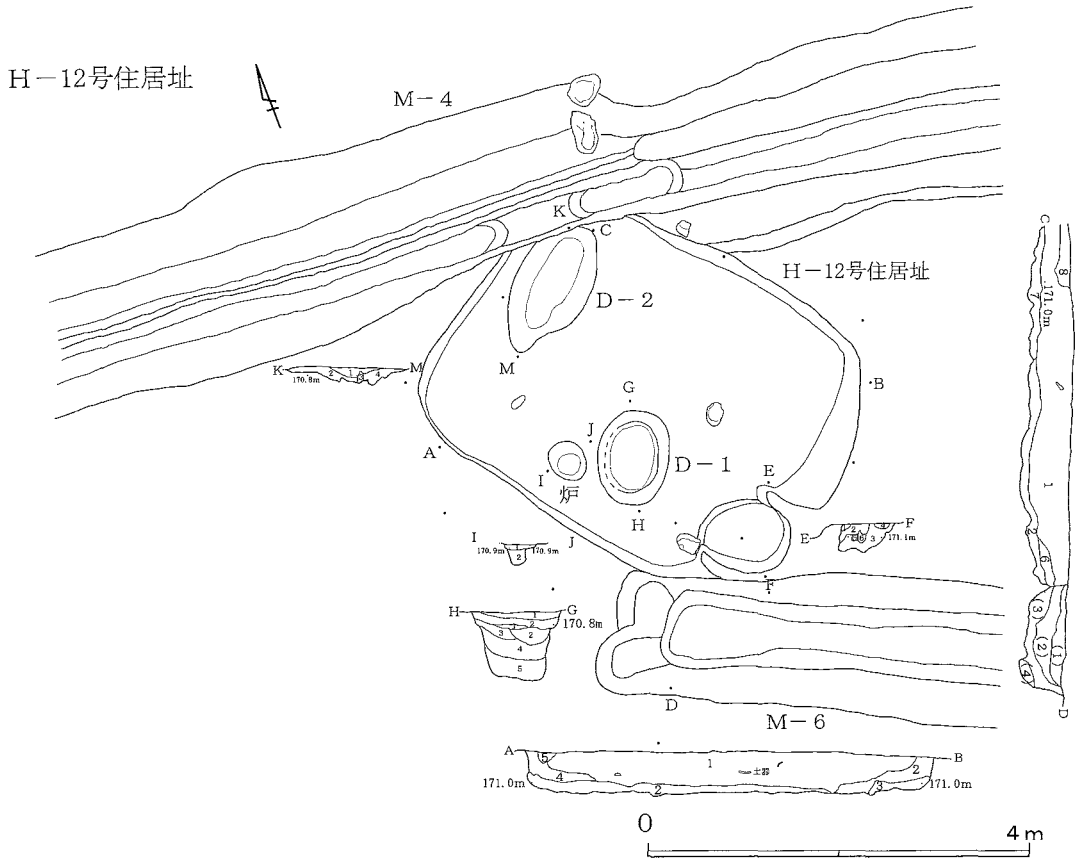
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－10直	1	黒褐色土層10YR		◎	○	○	×	※
	2	オリーブ褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	△	○
	3	暗褐色土層10YR	2＞3	△	◎	○	×	○
	4	橙色土層10YR	3＜4	◎	○	○	×	※
	5	明赤褐色土層10YR	4＞5	○	◎	○	×	△

H－11号住居址



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－11北壁	1	黒色土層10YR		△	×	×	△	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	△	×	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	△	△	○	△	△
	4	黄色土層10YR	2＜4	◎	×	◎	△	◎
	5	黒褐色土層10YR	4＞5	◎	△	◎	△	○

第９図　H－10・H－11号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－12東西 (A－B)	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	○
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	△	×	※	○
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	△	△	○	○	○
	4	黒褐色土層10YR	1＜10	◎	○	○	×	※
	5	暗褐色土層10YR	1＞9	△	△	×	×	×

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－12炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	△	○	×	△
	2	黒褐色土層7.5YR	1＞2	○	○	○	×	○

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－12南北 (C－D)	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	○
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	△	×	※	○
	6	黒褐色土層10YR	2＞6	△	△	×	×	※
	7	明黄褐色土層10YR	2＜7	○	△	○	◎	△
	8	黒色土層10YR	1＞8	○	△	×	×	×

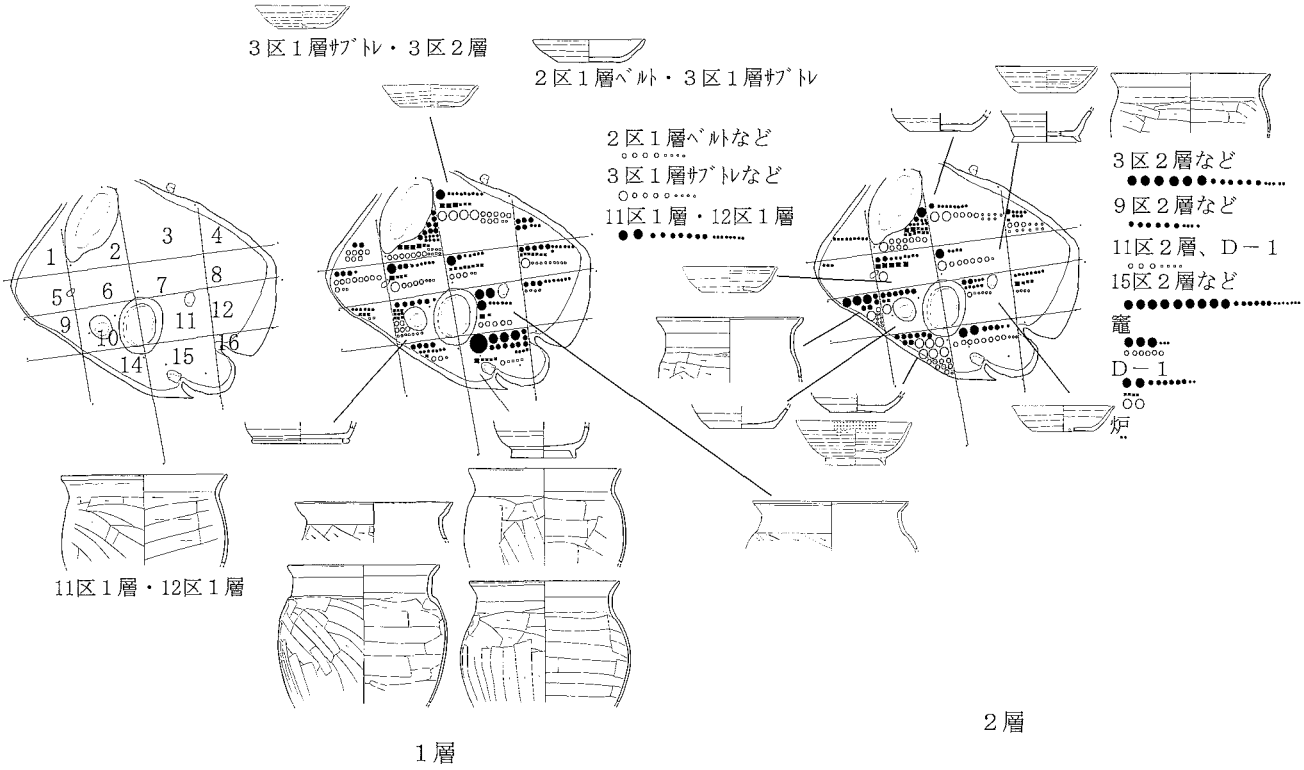
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
H－12竈 (E－F)	1	暗褐色土層10YR		△	○	○	×	※	
	2	明黄褐色土層10YR	1＜2	△	○	◎	×	×	△
	3	暗赤褐色土層10YR	2＞3	△	○	○	×	×	△
	4	赤褐色土層10YR	3＜4	△	◎	◎	×	※	○
	5	黒褐色土層10YR	3＞5	○	○	◎	×	※	
	6	赤褐色土層10YR	5＜6	○	◎	◎	×	※	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－12	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	○
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	○	○	△
D－1 (G－H)	1	黒褐色土層10YR		△	△	○	○	△
	2	明褐色土層10YR	1＜2	△	△	◎	○	○
	3	暗褐色土層10YR	2＞3	△	△	◎	○	○
	4	褐色土層10YR	3＜4	△	△	◎	○	○
	5	黒褐色土層10YR	4＞5	△	△	○	○	○

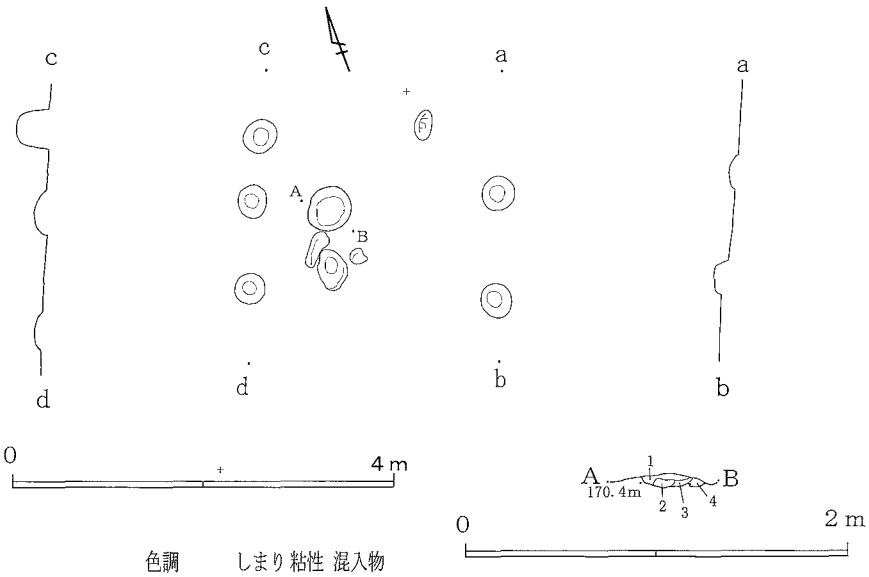
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－12・D－2 (K－M)	1	褐色土層10YR		◎	○	◎	△	※
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	○	△	◎	△	○
	3	褐色土層10YR	2＜4	○	△	○	○	○
	4	明黄褐色土層10YR	3＜4	△	△	◎	△	◎

第10図　H－12号住居址実測図

Ｈ－12号住居址遺物分布



ＨＴ－１



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
ＨＴ－１炉	1	黄橙色土層10YR		△	△	×	×	×	◎
	2	褐色土層10YR	1＞2	○	△	×	×	×	○
	3	灰褐色土層10YR	3＜4	△	△	×	×	×	△
	4	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	

第11図　Ｈ－12号住居址遺物分布図・ＨＴ－１号建物址実測図

［竪穴状遺構］

Ｔ－１号竪穴状遺構（第 12 図）

遺構の平面形は隅丸三角形である。床面は南西側がくぼんでいた。竈や柱穴は検出できなかった。

遺物出土状態　遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

Ｔ－２号竪穴状遺構（旧Ｈ－１号住居址、第 13 図）

遺構の平面形は長方形であると推測される。床面はほぼ水平だった。柱穴は１基を確認できたが、主柱穴に当たるかどうかは不明である。竈は検出できなかった。南側でＴ－３号竪穴状遺構と重複する。

遺物出土状態　遺物は須恵器が 12 区から出土した。

Ｔ－３号竪穴状遺構（旧Ｈ－２号住居址、第 13 図）

遺構の平面形は正方形であると推測される。床面はほぼ水平だった。柱穴は確認できなかった。竈は検出できなかった。北側でＴ－２号竪穴状遺構と重複する。

遺物出土状態　遺物は土師器と須恵器が出土したが、土師器が多い。

Ｔ－４号竪穴状遺構（旧Ｈ－７号住居址、第 12 図）

遺構の平面形は隅丸長方形であると推測される。柱穴や竈は検出できなかった。南側でＴ－５号竪穴状遺構と重複する。

遺物出土状態　遺物は出土しなかった。

Ｔ－５号竪穴状遺構（旧Ｈ－８号住居址、第 12 図）

遺構の平面形は隅丸長方形である。床面は起伏に富んでいる。柱穴は１基確認したが、主柱穴に当たるかどうかは不明である。北側にＴ－４号竪穴状遺構と、東側でＤ－９号土坑と重複する。

遺物出土状態　遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

Ｔ－６号竪穴状遺構（旧Ｈ－ 14 号住居址、第 14 図）

遺構の平面形は長方形であると推測される。柱穴や竈は確認できなかった。

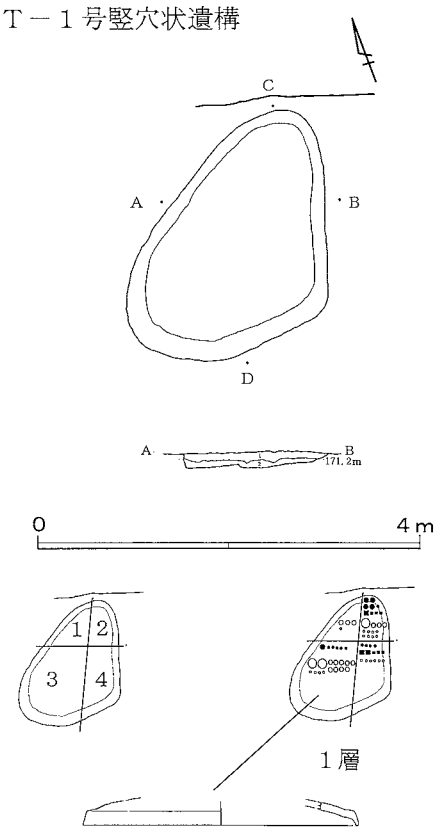
遺物出土状態　遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

Ｔ－７号竪穴状遺構（旧Ｈ－ 15 号住居址、第 14 図）

遺構の平面形は正方形である。柱穴や竈は確認できなかった。北西隅にＤ－12号土坑が重複する。

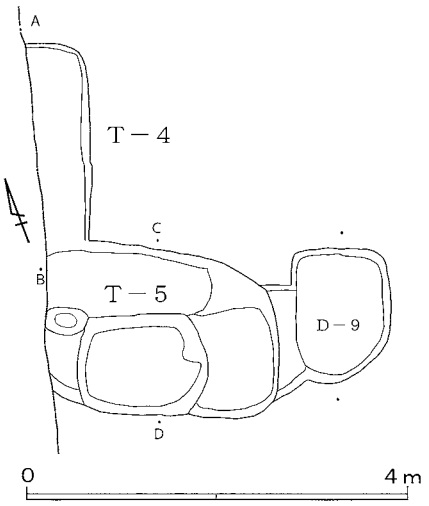
遺物出土状態　遺物は須恵器が７区・11 区で出土した。

Ｔ－１号竪穴状遺構

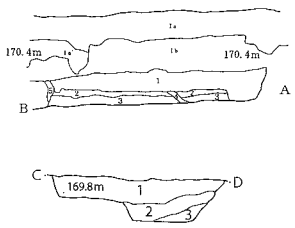


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B
Ｔ－１	1	黒褐色土層10ＹＲ		○	○	×	※	※	※	※	△
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＜2	○	○	※	※	※	×	×	×

Ｔ－４・Ｔ－５号竪穴状遺構

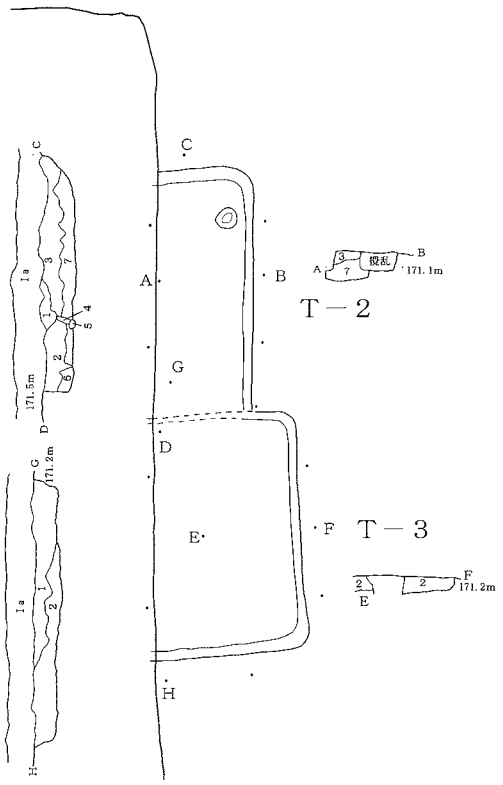


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
Ｔ－４西壁	Ｉａ								
(Ａ－Ｂ)	Ｉａ'								
	Ｉｂ								
	1	黒褐色土層10ＹＲ		△	△	○	△	※	※
	2	黄橙色土層10ＹＲ	1＜2	△	○	◎	×	○	
	3	黒色土層10ＹＲ	2＞3	◎	◎	○	※	△	
	4	黄橙色土層10ＹＲ	3＜4	×	△	◎	×	×	
	5	黄橙色土層10ＹＲ	3＜5	×	○	◎	×	○	



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
Ｔ－５	1	暗褐色土層10ＹＲ		○	×	△	※	×	△
(Ｃ－Ｄ)	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＝2	×	△	○	○	※	△
	3	黒褐色土層10ＹＲ	2＞3	×	△	○	※	×	△

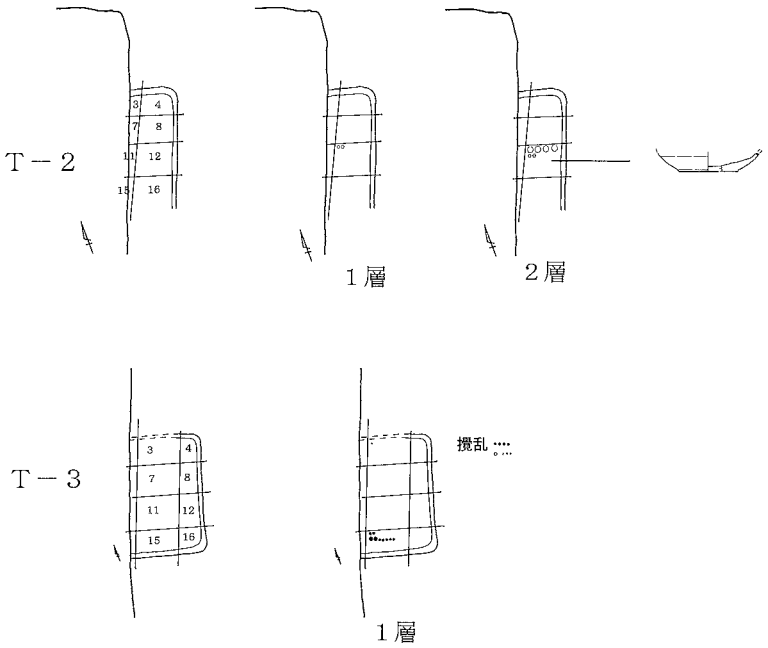
第12図　Ｔ－１・Ｔ－４・Ｔ－５号竪穴状遺構実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｔ－２ベルト	3	暗褐色土層10ＹＲ		◎	◎	○	※	※
	7	黄褐色土層10ＹＲ	3＜7	◎	◎	◎	△	△

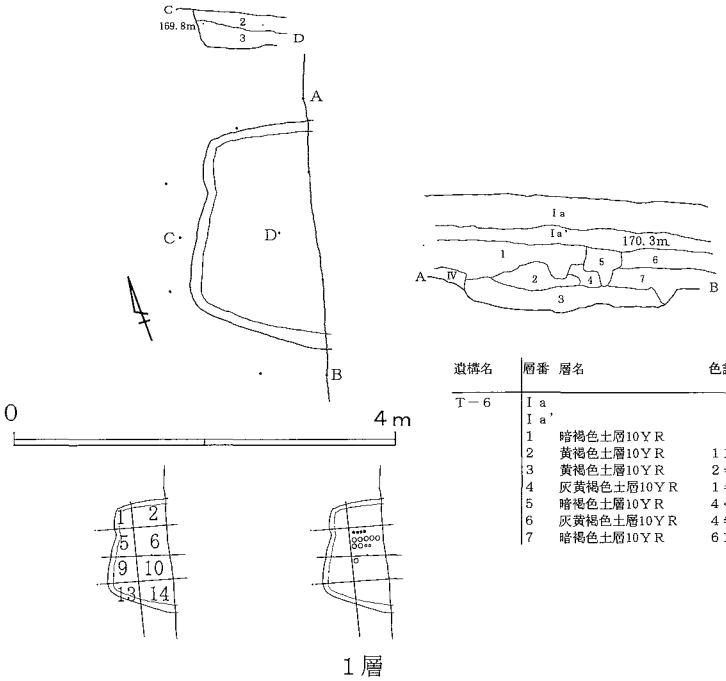
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｔ－２西壁	Ｉａ							
	1	黒褐色土層10ＹＲ		△	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＜2	◎	◎	○	×	※
	3	暗褐色土層10ＹＲ	1＜3	◎	◎	○	※	※
	4	にぶい黄褐色土層10ＹＲ	1＜4	×	○	○	×	※
	5	黒色土層10ＹＲ	4＞5	×	○	○	×	×
	6	にぶい黄褐色土層10ＹＲ	5＜6	△	○	○	※	※
	7	黄褐色土層10ＹＲ	5＜7	◎	◎	◎	△	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｔ－３	1	黒褐色土層10ＹＲ		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10ＹＲ	1＜2	○	○	×	×	×



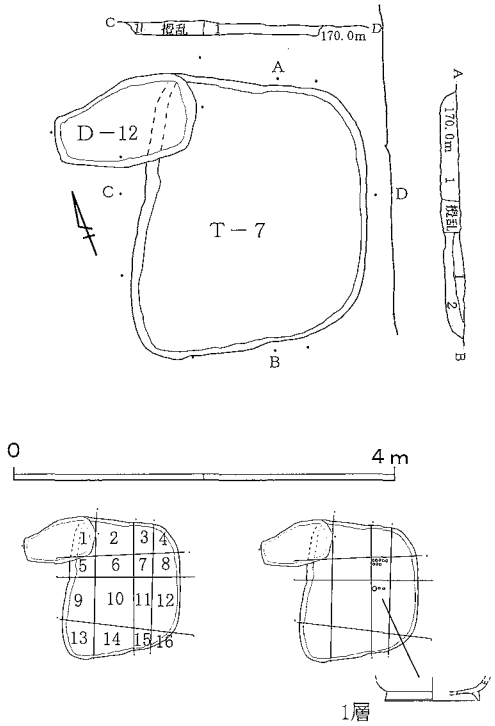
第13図　Ｔ－２・Ｔ－３号竪穴状遺構実測図

Ｔ－６号竪穴状遺構



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
Ｔ－６	Ⅰa								
	Ⅰa'								
	1	暗褐色土層10ＹＲ		○	○	×	※	△	※
	2	黄褐色土層10ＹＲ	1＞2	◎	△	◎	○	○	
	3	黄褐色土層10ＹＲ	2≒3	△	◎	◎	○	○	
	4	灰黄褐色土層10ＹＲ	1≒4	×	○	×	△	※	
	5	暗褐色土層10ＹＲ	4＜5	△	△	◎	○	○	
	6	灰黄褐色土層10ＹＲ	4≒6	○	△	×	×	※	※
	7	暗褐色土層10ＹＲ	6＞7	◎	○	◎	△	△	

Ｔ－７号竪穴状遺構



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
Ｔ－７	1	黒褐色土層10ＹＲ		△	○	×	※	△	※
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＜2	◎	◎	△	○	○	

第14図　Ｔ－６・Ｔ－７号竪穴状遺構実測図

［溝］

M－１号溝（第 15 図）

本調査区の南側で確認された。断面形は楕円形を半分に切ったような形状を呈する。M－３号溝と平行である。ちなみにその距離はM－１号溝の中央からM－３号溝の中央まで 9.5 mを測る。３区の北西でD－ 11 号土坑が重複する。遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。また、３区で出土した宋銭はD－ 11 号土坑に属すると推定されるので、D－ 11 号土坑が造られる前にその機能が失われていたと考えられる。

M－３号溝（第 15 図）

調査区の南側で確認された。断面は正方形を呈する。M－１号溝と平行である。遺物は土師器、須恵器が出土した。

M－４号溝（第 16 図）

調査区の北側で東西に続くことを確認された。断面形はV字形を呈する。H－ 12 号住居址、H－ 11 号住居址の一部を壊して造られている。形成時期は「Ⅵ　安中市地尻Ⅲ遺跡の火山灰分析」の中で考察されているように、Ａｓ－Ｂの降下後～Ａｓ－Ａの降下前と推測される。溝の形状から機能的には用水路の可能性が考えられる。遺物は土師器、須恵器、布目瓦が出土したが、須恵器が多い。また、馬の歯が３区１層、６区１層・２層で、牛の歯が６区２層で出土した。

M－５号溝（第 17 図）

調査区の東北、M－４号溝の南側で確認された。断面形は楕円形を半分に切ったような形状を呈するが、床面には起伏がある。遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

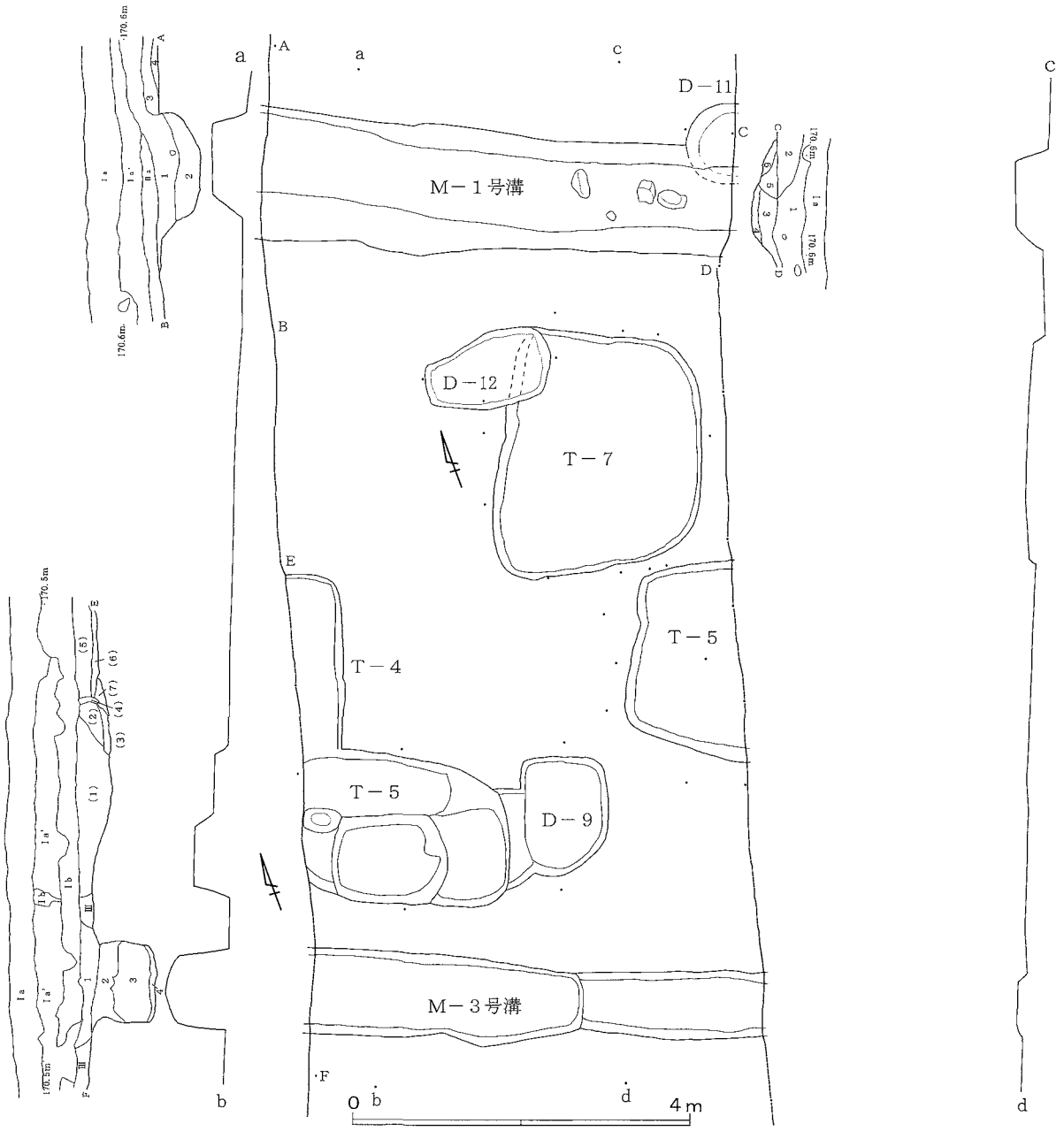
M－６号溝（第 17 図）

調査区の東側で確認された。H－ 12 号住居址と重複する。断面形はU字形を呈する。遺物は土師器、須恵器が出土したが、土師器が多い。

M－７号溝（第 18 図）

調査区の中央部で確認された。調査期間の都合で、一部しか調査できなかった。南西でH－５号住居址と重複する。遺物は土師器、須恵器が出土したが、須恵器が多い。

M－１号溝・M－３号溝

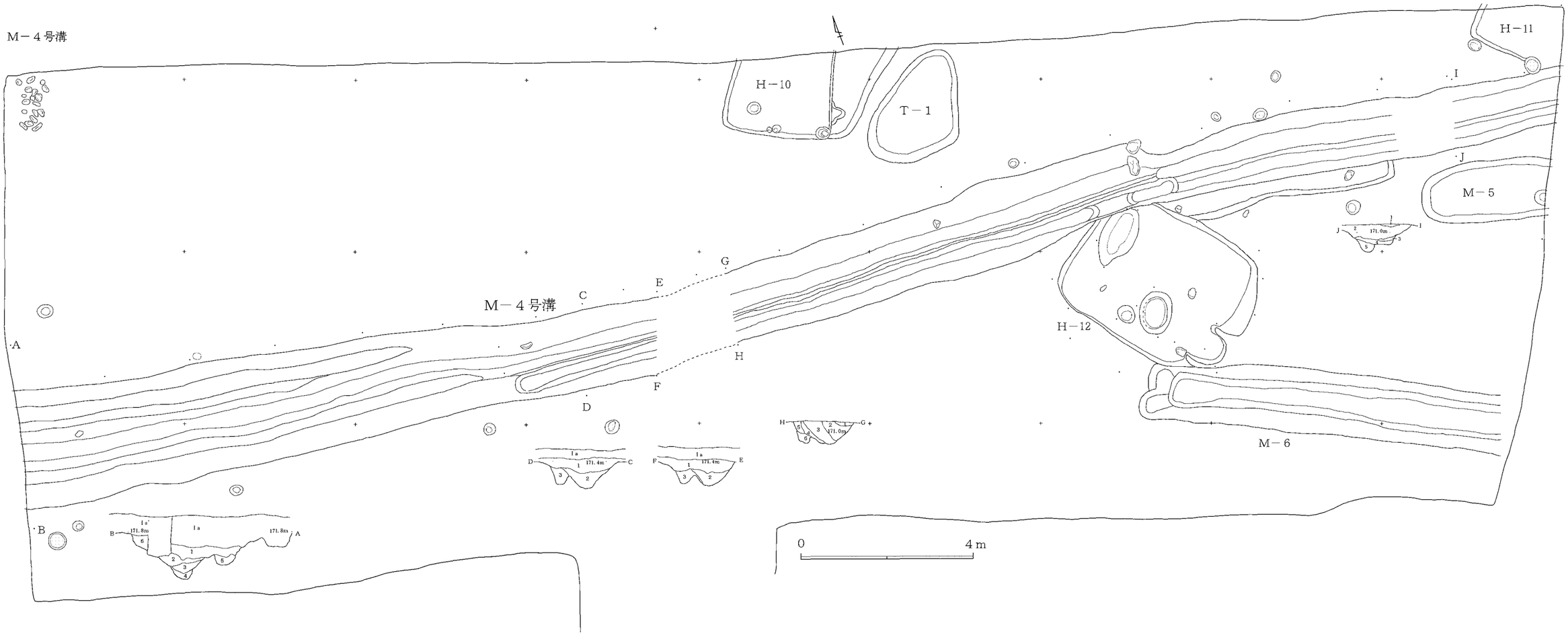


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
							RP	RBY	PAs	B
M－１西壁	Ⅰa									
(A－B)	Ⅰa'		Ⅰa＞Ⅰa'							
	Ⅱa		Ⅰa'＞Ⅱa							
	1	黒褐色土層10YR	Ⅱa＞1	△	×	△	○	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	×	◎	△	△	△		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	△	△	※	
	4	黄褐色土層10YR	3＜4	◎	◎	◎	○	△	※	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
							RP	RBY	PAs	B
M－１・	Ⅰa									
D－11	1	暗褐色土層10YR		△	△	×	※	△	※	
(C－D)	2	暗褐色土層10YR	1＞2	×	△	×	※	※	※	
	3	褐色土層10YR	1＞3	△	○	×	×	※	※	
	4	暗褐色土層10YR	3＞4	◎	○	×	×	×		
	5	黒褐色土層10YR	3＞5	◎	○	○	※	※	※	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	△	△	◎	○	※		

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
							RP	RBYP
M－３西壁	Ⅰa							
	Ⅰa'							
	Ⅰb							
	1	にぶい黄褐色土層10YR		×	△	○	△	×
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	×	○	○	△	×
	3	褐灰色土層10YR	2＜3	×	○	○	×	×
	4	明黄褐色土層10YR	2＜4	×	○	○	×	×

第15図　M－１・M－３号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RBYP	混入物 As-B
M－４西壁	Ⅰａ							
(A－B)	Ⅰａ’							
	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	※	※ ※
	2	明黄褐色土層10YR	1＜2	◎	○	◎	○	△
	3	黒色土層10YR	2＞3	◎	△	×	×	※ ※
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	△	○	◎	△	○
	5	黒褐色土層10YR		△	△	◎	△	△ ※
	6	黒色土層10YR	Ⅰａ’＞6	△	×	×	×	× ※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RBYP	混入物 As-B
M－４	Ⅰａ							
７区	1	暗褐色土層10YR		△	×	×	※	※
(C－D)	2	黄橙色土層10YR	1＜2	○	△	◎	○	◎
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	○	△	○	△	△

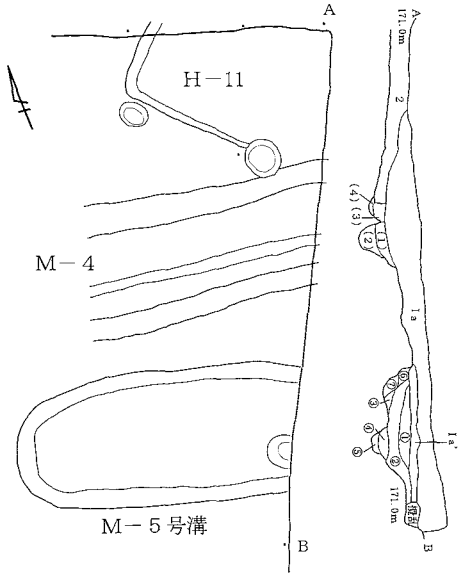
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RBYP
M－４	Ⅰａ						
８区	1	黒褐色土層10YR		×	×	×	× ○
(E－F)	2	黄褐色土層10YR	1＜2	◎	△	◎	○ ◎
	3	暗褐色土層10YR	2＞3	○	○	◎	○ △

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RBYP	混入物 As-B
M－４	1	黒色土層10YR		×	○	×	×	※ ※
９区ﾍﾞﾙﾄ	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	○	◎	○	○
(G－H)	3	明黄褐色土層10YR	2＞3	△	△	◎	○	◎
	4	黒褐色土層10YR	3＞4	○	△	×	○	※
	5	黄褐色土層10YR	5＝6	△	△	○	△	△
	6	黄褐色土層10YR		△	△	○	○	○

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RBYP
M－４	1	褐色土層10YR		◎	○	×	× ※
18区	2	黒褐色土層10YR	1＞2	◎	△	△	※ △
(I－J)	3	暗褐色土層10YR	2＜3	△	△	○	× △
	4	黒褐色土層10YR	3＞4	△	△	○	※ △
	5	黒色土層10YR	4＞5	△	△	○	△ △

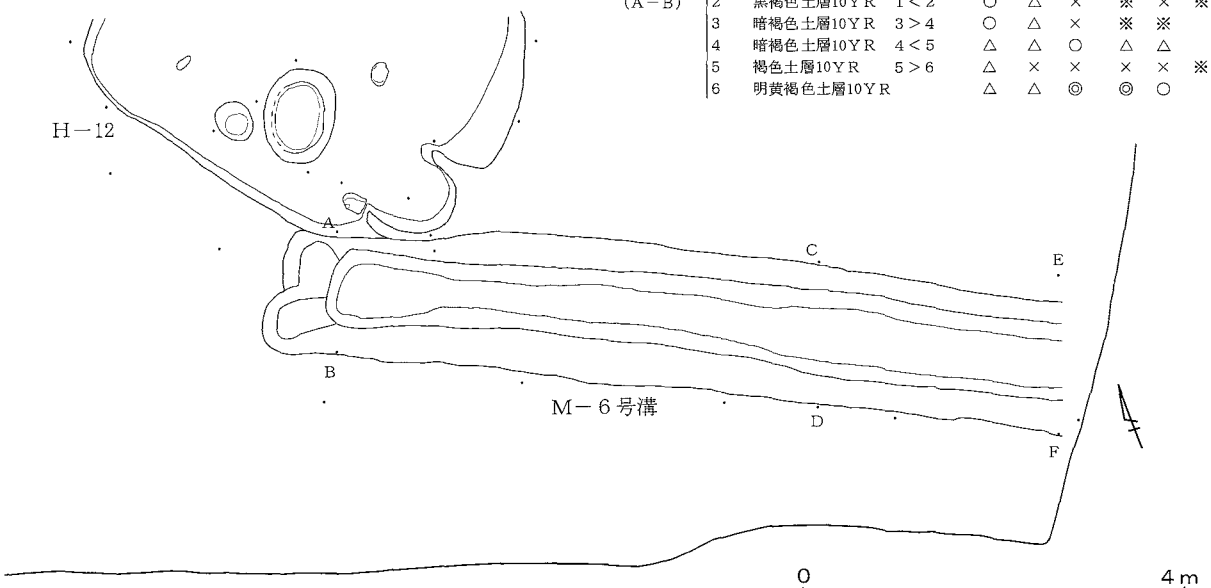
第16図　M－４号溝実測図

M－５号溝

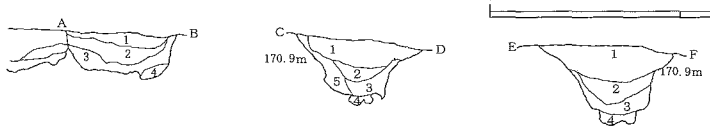


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	AS-B
M－５東壁	Ｉａ								
	Ｉａ'	黒褐色土層10ＹＲ		○	×	×	×	×	※
	①	黒褐色土層10ＹＲ	①>②	△	×	×	×	×	※
	②	暗褐色土層10ＹＲ	②<③	△	△	×	×	×	※
	③	褐色土層10ＹＲ	③<④	○	△	○	○	○	
	④	明黄褐色土層10ＹＲ	②<⑤	◎	○	◎	◎	○	
	⑤	暗褐色土層10ＹＲ	⑤<⑥	△	×	○	×	○	※
	⑥	褐色土層10ＹＲ	⑥<⑦	○	△	○	○	○	
	⑦	明黄褐色土層10ＹＲ		◎	○	◎	◎	○	

M－６号溝



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－６西 (A－B)	1	褐色土層10ＹＲ		△	×	×	×	×	※
	2	黒褐色土層10ＹＲ	1＜2	○	△	×	※	×	※
	3	暗褐色土層10ＹＲ	3＞4	○	△	×	※	※	
	4	暗褐色土層10ＹＲ	4＜5	△	△	○	△	△	
	5	褐色土層10ＹＲ	5＞6	△	×	×	×	×	※
	6	明黄褐色土層10ＹＲ		△	△	◎	◎	○	

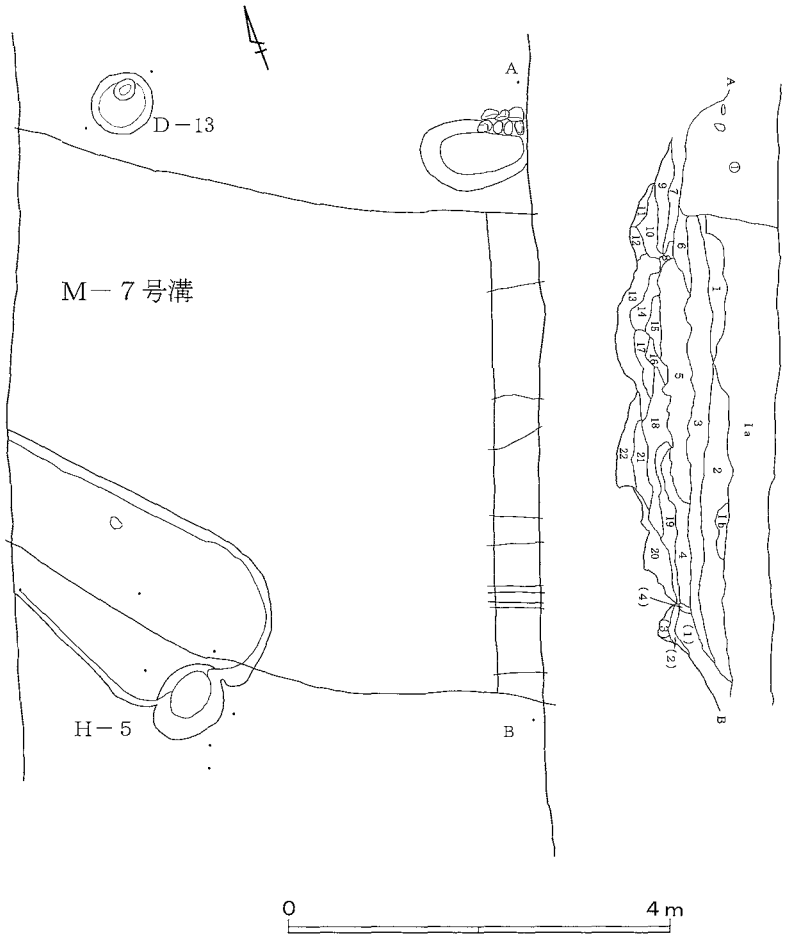


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－６ベルト (C－D)	1	褐色土層10ＹＲ		△	×	×	×	※	※
	2	暗褐色土層10ＹＲ	1＞2	○	×	○	×	※	※
	3	黒褐色土層10ＹＲ	2＝3	△	△	○	△	○	
	4	黒褐色土層10ＹＲ	3＞4	△	△	◎	△	○	
	5	暗褐色土層10ＹＲ	3＞5	△	△	◎	△	△	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－６東壁 (E－F)	1	暗褐色土層10ＹＲ		△	×	×	※	※	※
	2	黒褐色土層10ＹＲ	1＞2	○	×	○	×	△	※
	3	褐色土層10ＹＲ	2＜3	△	△	○	×	△	
	4	暗褐色土層10ＹＲ	3＞4	△	△	○	△	○	
	5	暗褐色土層10ＹＲ	4＞5	△	△	○	△	○	
	6	暗褐色土層10ＹＲ	2＞6	△	△	○	×	△	

第17図　M－５・M－６号溝実測図

M－７号溝



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RBY	PAs-B
M－7	Ⅰa							
	Ⅰb							
	1	暗褐色土層10YR		○	△	△	※	※	※
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	◎	△	△	※	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	3＞4	○	△	○	△	○	
	5	黒褐色土層10YR	4＞5	○	△	△	※	○	
	6	黒褐色土層10YR	5＜6	○	△	△	※	※	
	7	明黄褐色土層10YR	6＜7	◎	◎	◎	◎	○	
	8	黒褐色土層10YR	7＞8	◎	◎	○	※	※	
	9	黒褐色土層10YR	8＞9	◎	△	○	△	△	
	10	黄橙色土層10YR	9＜10	◎	◎	◎	○	○	
	11	黒褐色土層10YR	10＞11	△	○	◎	◎	◎	
	12	黒褐色土層10YR	11＞12	◎	○	○	×	×	
	13	黒褐色土層10YR	12＜13	△	×	△	×	×	
	14	にぶい黄褐色土層10YR	13＜14	◎	◎	◎	※	○	
	15	黒褐色土層10YR	14＞15	○	△	△	×	×	
	16	暗褐色土層10YR	15＜16	○	○	○	×	△	
	17	黄橙土層10YR	16＜17	◎	◎	◎	◎	◎	
	18	暗褐色土層10YR	17＞18	○	◎	◎	※	○	
	19	黒色土層10YR	18＞19	◎	◎	○	○	※	
	20	黒色土層10YR	19＞20	△	○	×	×	△	
	21	黒褐色土層10YR	20＜21	○	○	◎	○	△	
	22	黒褐色土層10YR	21＞22	○	○	△	○	○	
	(1)	黒褐色土層10YR	(1)＞(2)	○	○	○	○	※	※
	(2)	暗褐色土層10YR	(2)＜(3)	△	◎	○	※	○	
	(3)	明黄褐色土層10YR		△	○	◎	○	△	
	(4)	にぶい黄褐色土層10YR		○	○	◎	※	※	

第18図　M－７号溝実測図

［土坑］

D－3号土坑（第19図）

平面は楕円形、断面は碗状を呈する。遺物は須恵器が出土した。

D－4号土坑（第19図）

平面は隅丸方形、断面は碗状を呈する。遺物は須恵器が出土したが、図化できる遺物はなかった。

D－5号土坑（第19図）

平面は隅丸方形、断面は皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

D－6号土坑（第19図）

平面は楕円形、断面は皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

D－7号土坑（第19図）

調査区の都合で半分しか調査できなかったが、平面は東西に長い楕円形で、断面は袋状を呈する。遺物は出土しなかった。

D－8号土坑（第19図）

平面は隅丸方形、断面は皿状を呈する。遺物は須恵器坏が出土した。

D－10号土坑（第19図）

平面は長方形、断面は皿状を呈する。遺物は土師器、須恵器が出土した。

D－11号土坑（第19図）

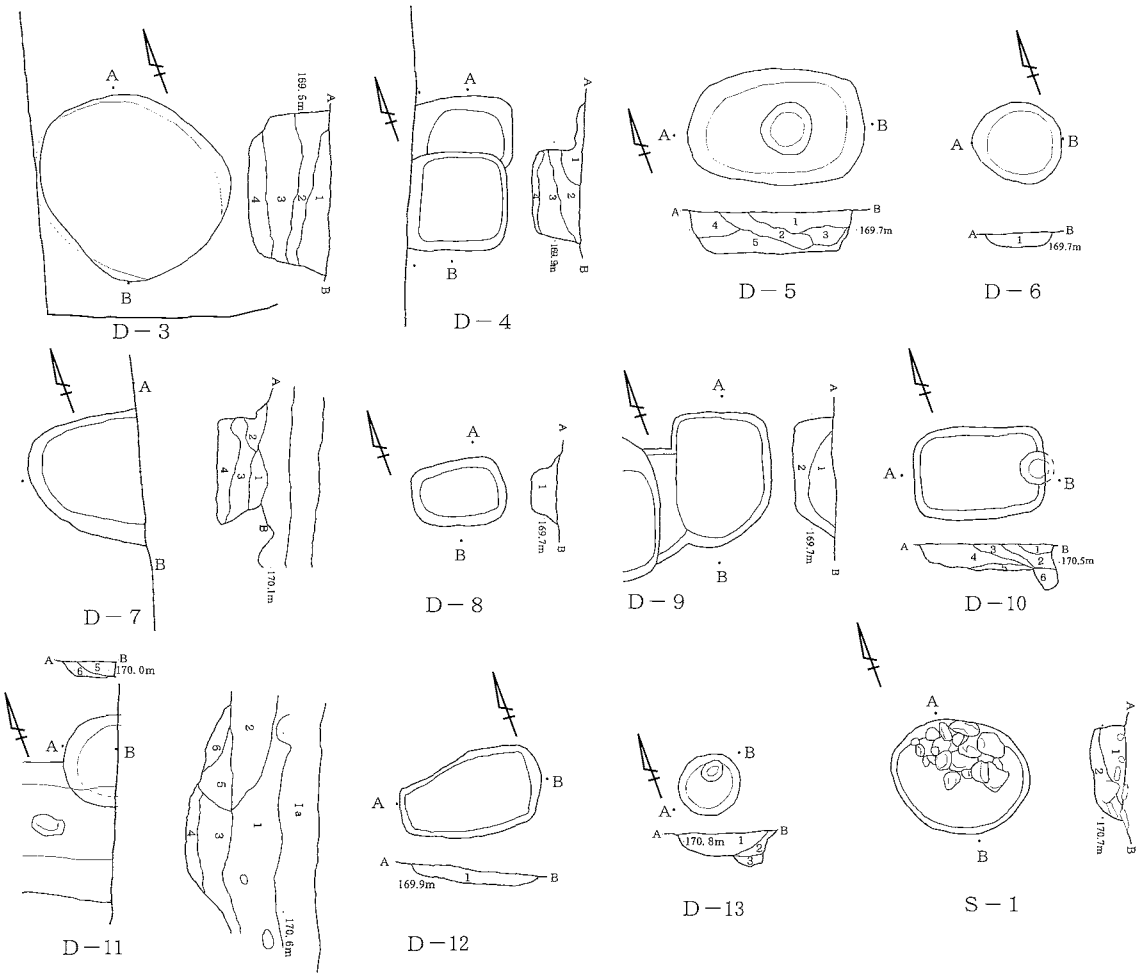
調査区の都合で半分しか調査できなかったが、平面は円形、断面は皿状を呈すると推測される。M－1号溝の一部を壊して造られている。遺物は宋銭が出土した。

D－12号土坑（第19図）

平面は隅丸方形、断面は皿状を呈する。H－15号住居址の一部を壊して造られている。遺物は出土しなかった。

S－1号集石土坑（第19図）

平面は楕円形、断面は碗状を呈する。北側に石が固まって置かれていたが、組み合わされてはいなかった。遺物としては土師器、須恵器、布目瓦が出土した。



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－3	1	褐色土層10YR		◎	◎	◎	△	△
	2	黄色土層10YR	1＜2	◎	◎	◎	△	◎
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	◎	◎	◎	△	△
	4	黄色土層10YR	3＜4	◎	◎	◎	△	◎

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－4	1	黒褐色土層10YR		○	△	○	○	△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	△	△	○	○	○
	3	明黄褐色土層10YR	2＜3	×	×	○	◎	◎
	4	黒色土層10YR	3＞4	△	◎	○	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	△	○	○	○	※
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	◎	◎	△	
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	△	△	○	△	△	
	4	暗褐色土層10YR	2＞4	△	△	◎	○	△	
	5	黒褐色土層10YR	4＞5	○	◎	○	○	△	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
D－6	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	※	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－7	Ⅰa							
	1	黒褐色土層10YR		△	○	○	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	○	○	×	※
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	◎	×	△
	4	暗褐色土層10YR	2＞4	△	○	○	△	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
D－8	1	黒褐色土層10YR		△	△	○	×	※	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
D－9	1	暗褐色土層10YR		△	△	◎	×	※	※
	2	黒褐色土層10YR		◎	◎	◎	※	※	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－10	1	暗褐色土層10YR		△	○	○	△	※
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	△	○	○	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	△	○	○	△	△
	4	褐色土層10YR	3＜4	△	△	×	○	△
	5	黄橙色土層10YR	4＜5	○	○	◎	◎	○
	6	褐色土層10YR	2＜6	△	△	○	○	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－11	5	暗褐色土層10YR		△	○	×	×	※
	6	黒褐色土層10YR	5＞6	△	○	×	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－12	1	暗褐色土層10YR		△	◎	×	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－13	1	暗褐色土層10YR		△	○	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	△	○	※	※	※
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	○	○	△	※	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A
S－1	1	黒色土層10YR		△	△	×	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	△	×	×	×	

第19図　土坑実測図

2　遺物

［土器］

遺構出土遺物

Ｈ－３号住居址では内面黒色土器、須恵器坏・高台付碗、土師器甕、布目瓦を実測した（第 20 図１～ 10)。３の高台付碗は高台を削りだしている。４・６の土師器甕はコの字状口縁である。５・７・８の土師器甕は崩れたくの字口縁である。Ｈ－４号住居址では須恵器坏・高台付碗・蓋、土師器甕を実測した（第 20 図 11 ～ 15)。15 の土師器甕はコの字状口縁甕である。Ｈ－５号住居址では須恵器坏・須恵器蓋を実測した（第 21 図１～５）。Ｈ－６号住居址では須恵器坏・高台付碗・長頸壺・高台付盤、土師器甕を実測した（第 21 図６～ 12)。12 の土師器甕はくの字形口縁である。Ｈ－９号住居址では須恵器甕を実測した（第 21 図 13)。Ｈ－ 10 号住居址では土師器坏、須恵器坏・高台付碗を実測した（第 21 図 14 ～ 16)。16 の高台付碗は高台を削りだしたものである。Ｈ－ 11 号住居址では須恵器坏・高台付碗を実測した（第 22 図１・２）。Ｈ－ 12 号住居址では須恵器坏・高台付碗、土師器甕を実測した（第 22 図３～ 18、第 23 図１～ 10)。高台付碗は高台を削りだしたもの（第 22 図 14）と貼り付けたもの（第 22 図 15 ～ 17）がある。土師器甕はコの字状口縁（第 23 図６・７・８・９・10）と崩れたくの字状口縁（第 22 図 18、第 23 図１～４）がある。

Ｔ－１号竪穴状遺構では須恵器蓋を実測した（第 23 図 11)。Ｔ－２号竪穴状遺構では須恵器坏を実測した（第 23 図 12)。Ｔ－７号竪穴状遺構では須恵器高台付碗を実測した（第 23 図 13)。

Ｍ－４号溝では須恵器高台付碗、円面硯、布目瓦を実測した（第 24 図１～８）。Ｍ－５号溝では須恵器坏・高台付碗を実測した（第 24 図９・10)。Ｍ－６号溝では須恵器坏を実測した（第 24 図 11・12)。Ｍ－７号溝では須恵器坏・高台付碗を実測した（第 25 図１～３）。Ｓ－１号集石土坑では須恵器坏、布目瓦を実測した（第 25 図４～６）。Ｄ－３号土坑では須恵器高台付碗を実測した（第 25 図７）。Ｄ－ 10 号土坑では須恵器蓋を実測した（第 25 図８）。Ｄ－８号土坑では須恵器坏を実測した（第 25 図９）。

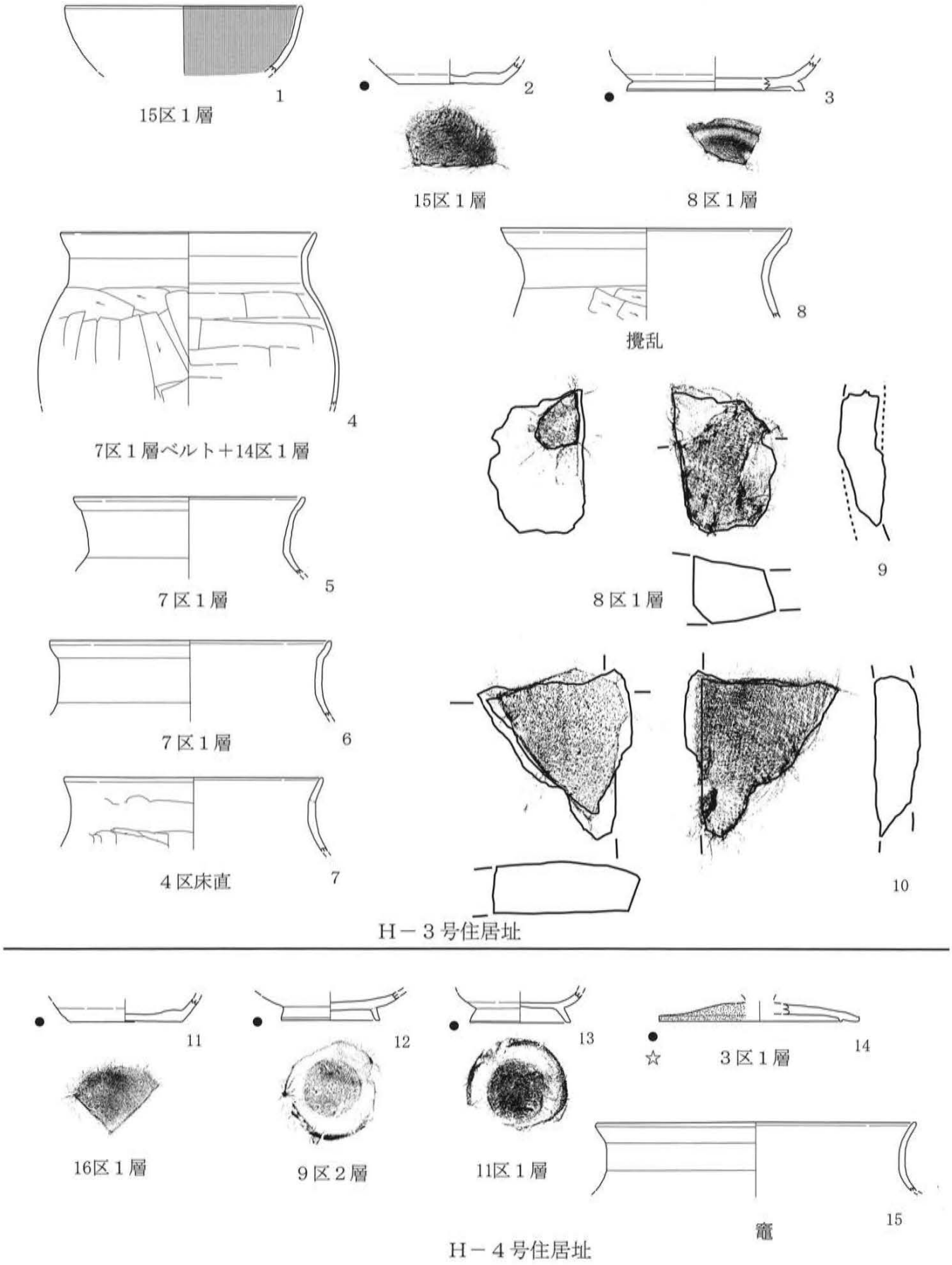
遺構外遺物（第 26 図・第 27 図）

須恵器坏、須恵器高台付皿、須恵器高台付碗、布目瓦、灰釉陶器蓋を実測した。第 26 図３の須恵器高台付皿、第 26 図４・５の須恵器高台付碗は高台を貼り付けたものである。第 26 図９の灰釉陶器蓋は内面が磨かれているので転用硯だと考えられる。

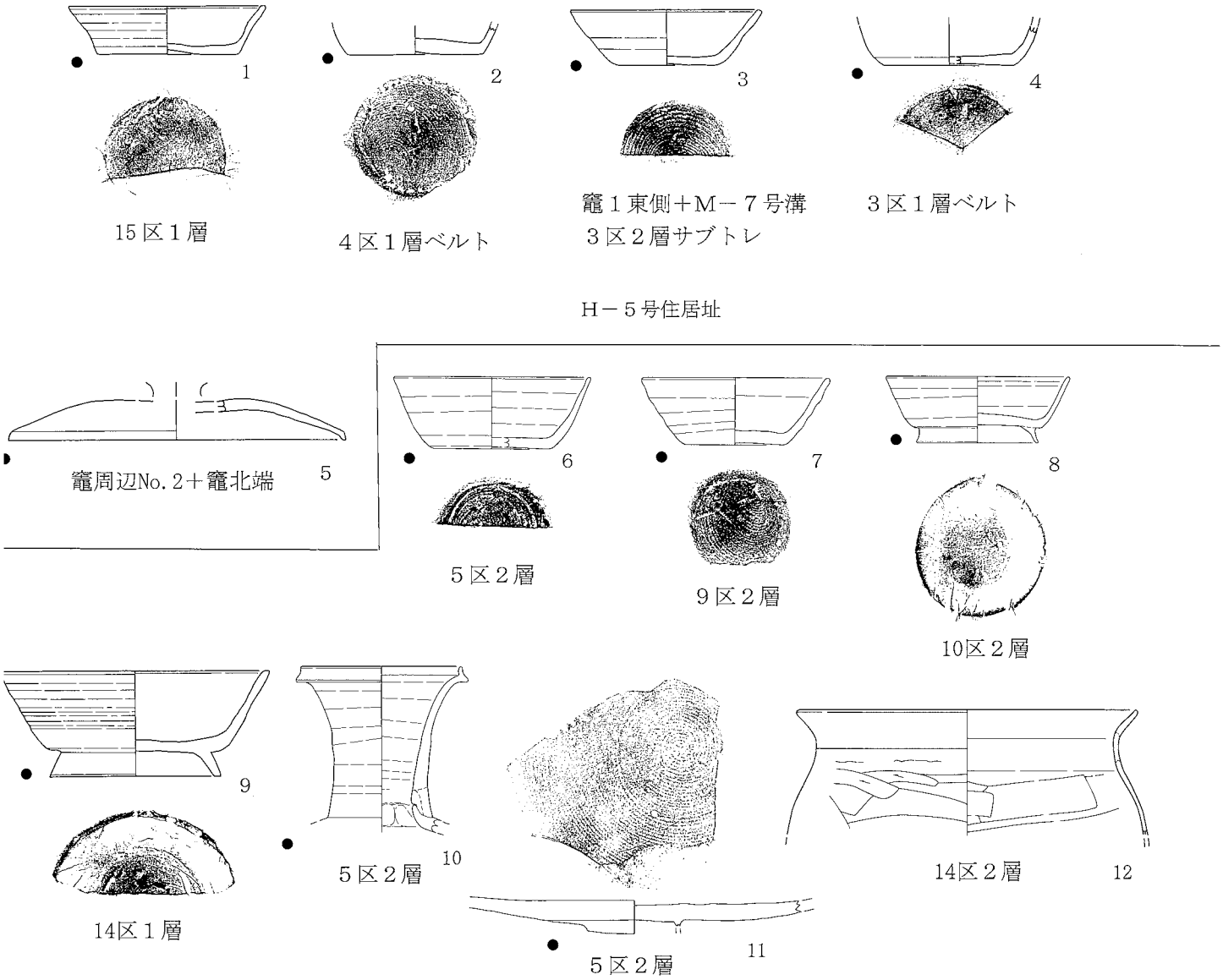
金属製品

Ｄ－ 11 号土坑出土遺物（第 26 図）

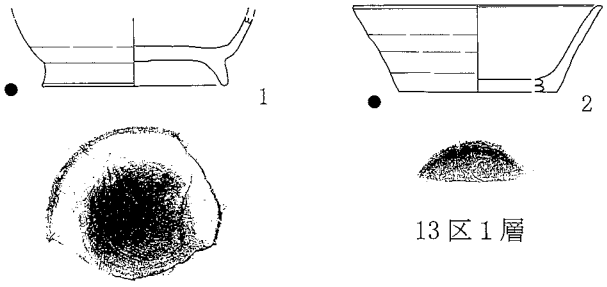
宋銭が６枚出土した（第 26 図11～16）。文字の判読できないものがあるが残り５枚はいずれも北宋銭である。土坑自体はあまり大きくないが六道銭だと推測される。



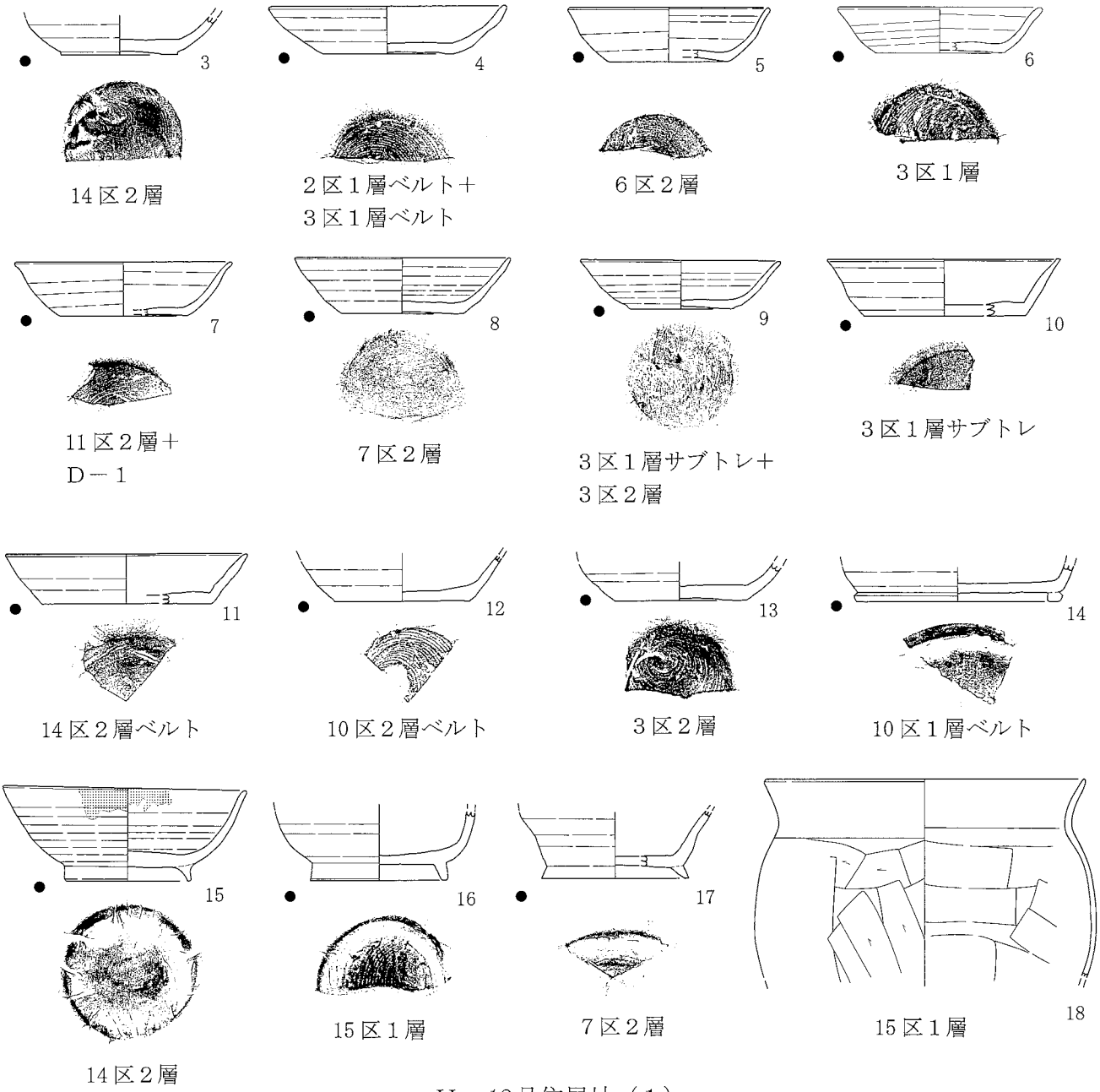
第20図　Ｈ－３・Ｈ－４号住居址出土土器実測図



第21図　Ｈ－５・Ｈ－６・Ｈ－９・Ｈ－10号住居址出土土器実測図

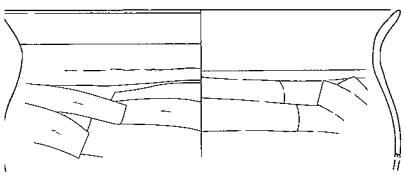


H－11号住居址



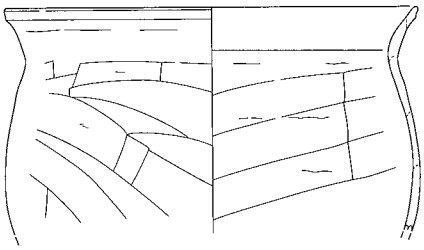
H－12号住居址（1）

第22図　H－11号住居址・H－12号住居址出土土器（1）実測図

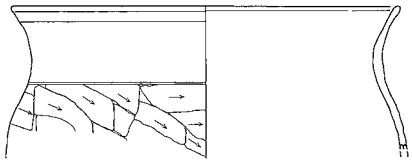


1

7区2層

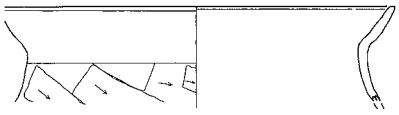


11区1層＋12区1層　2



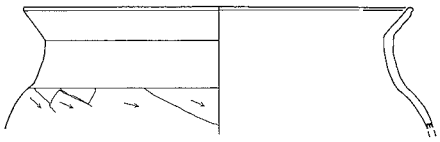
3

9区2層＋
11区1層ベルト

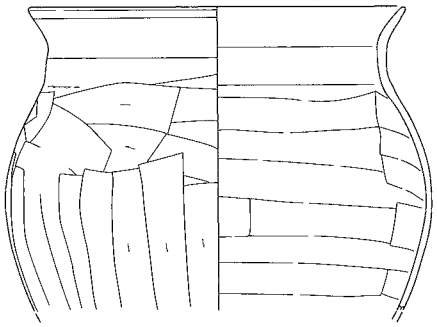


4

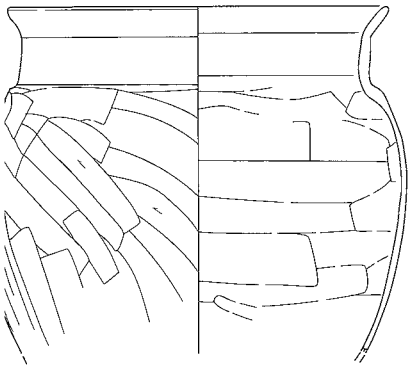
15区1層



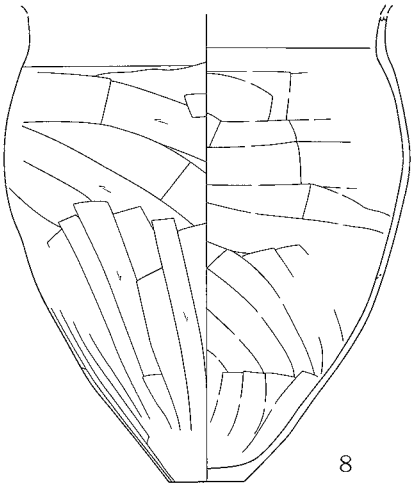
11区1層　5



15区1層　6

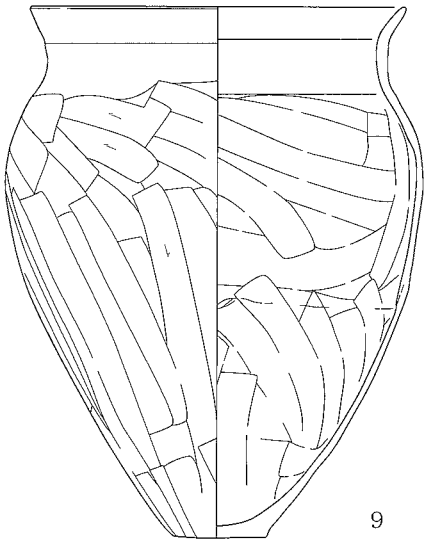


15区1層　7



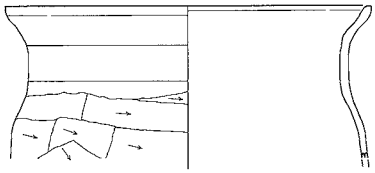
8

3区2層＋9区2層
＋10区2層



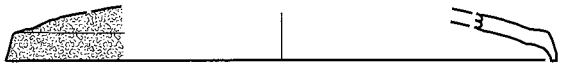
9

15区2層＋3区2層＋7区1層
＋D－1＋　14区2層ベルト



9区2層　10

H－ 12号住居址（2）



11

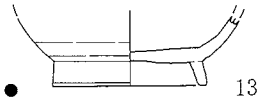
3区1層

T－1号竪穴状遺構

12

12区1層

T－2号竪穴状遺構

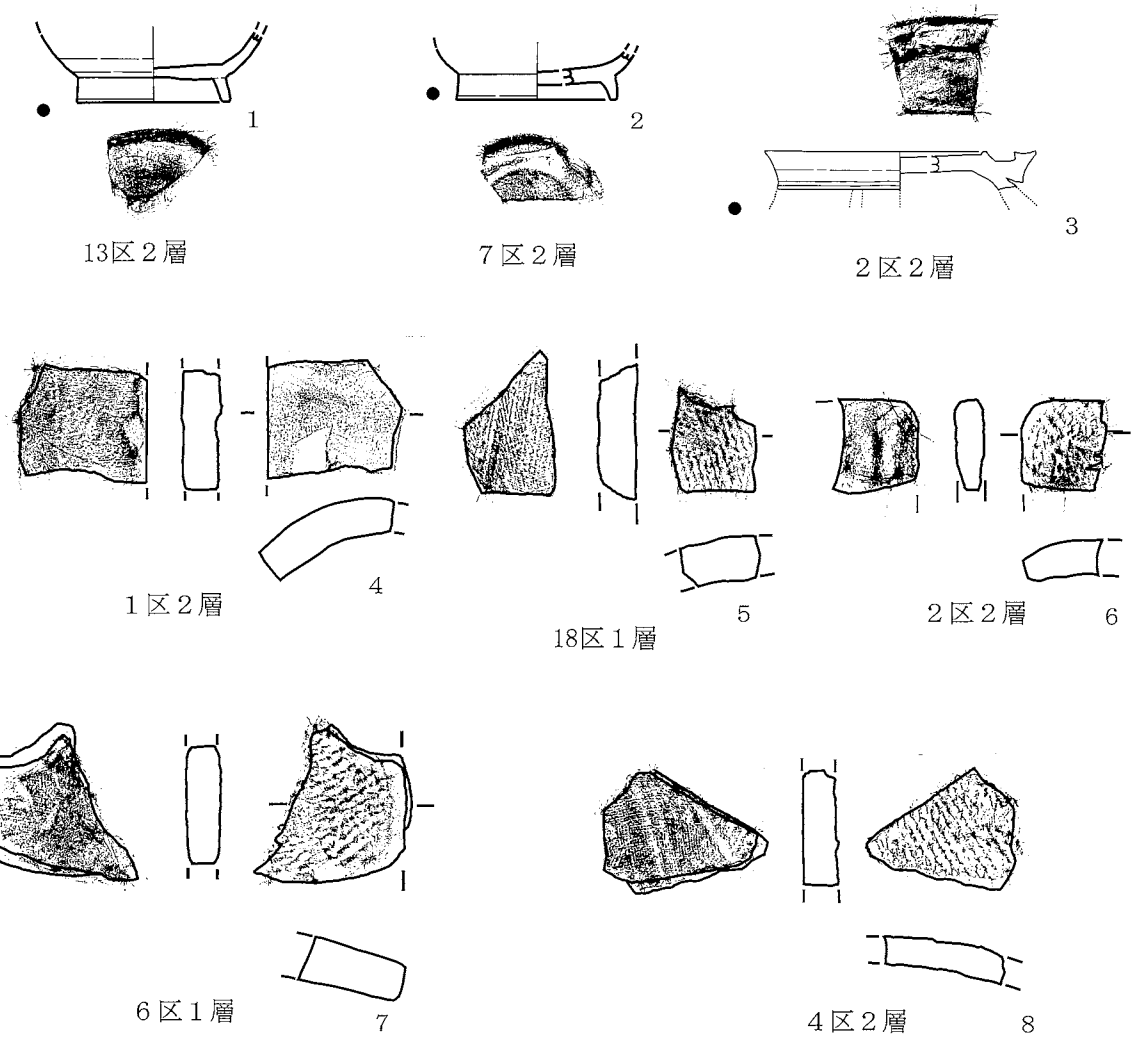


13

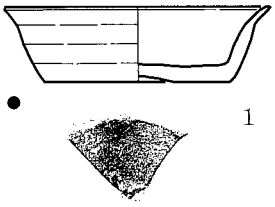
11区1層

T－7号竪穴状遺構

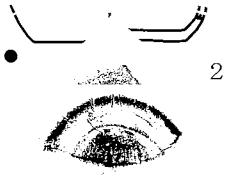
第23図　H－12号住居址（2）・T－1・T－2・T－7号竪穴状遺構出土土器実測図



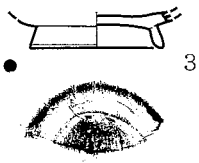
第24図　M－４・M－５・M－６号溝出土土器実測図



6区3層サブトレ

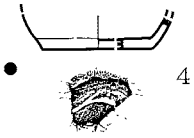


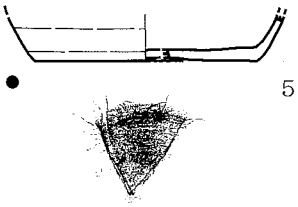
6区3層サブトレ

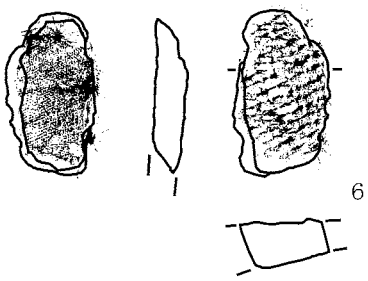


6区2層サブトレ

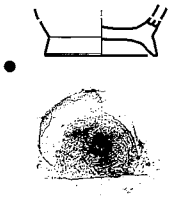
M－7号溝



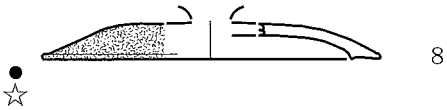




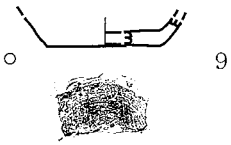
S－1号集石土坑



D－3号土坑

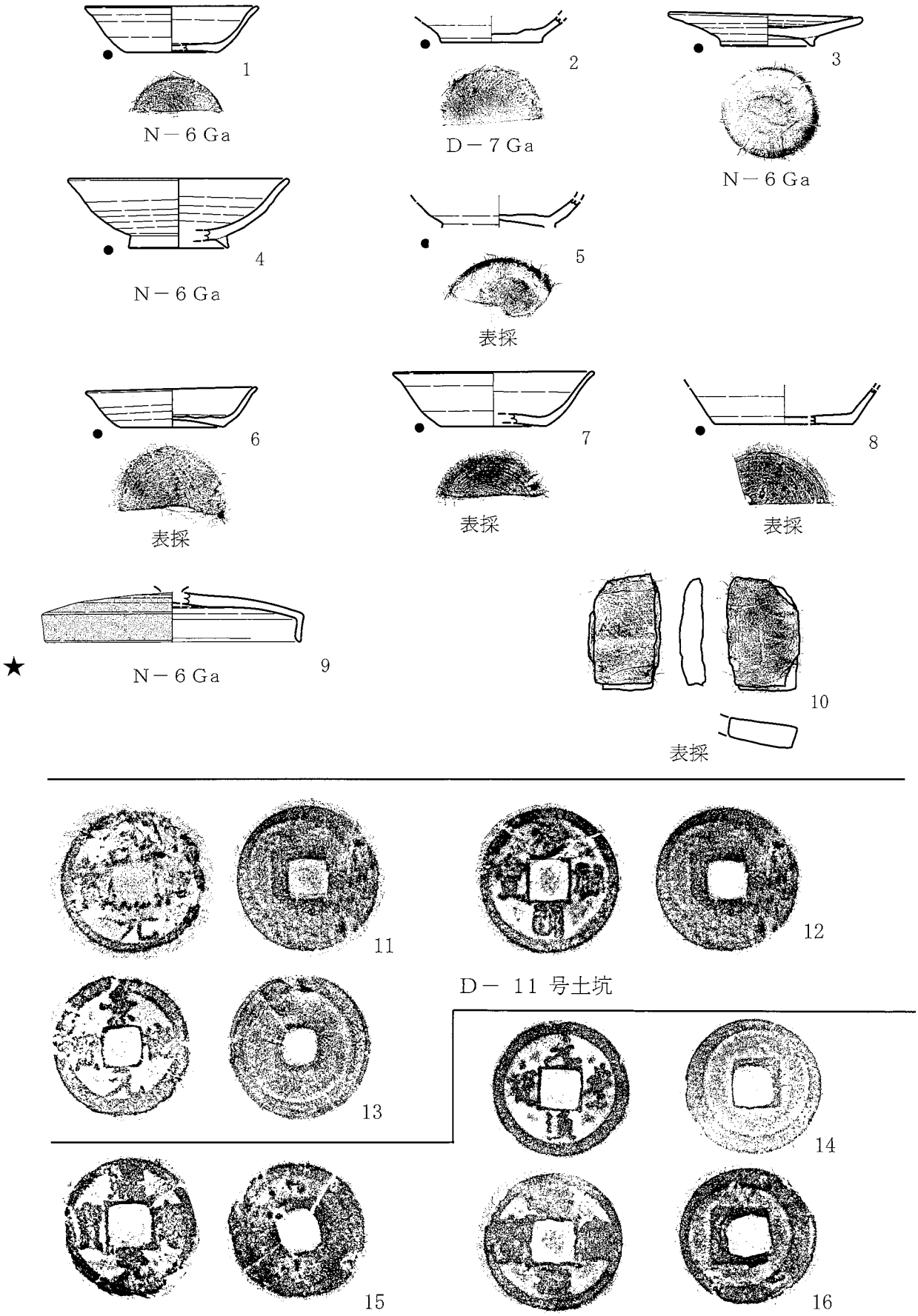


D－10号土坑

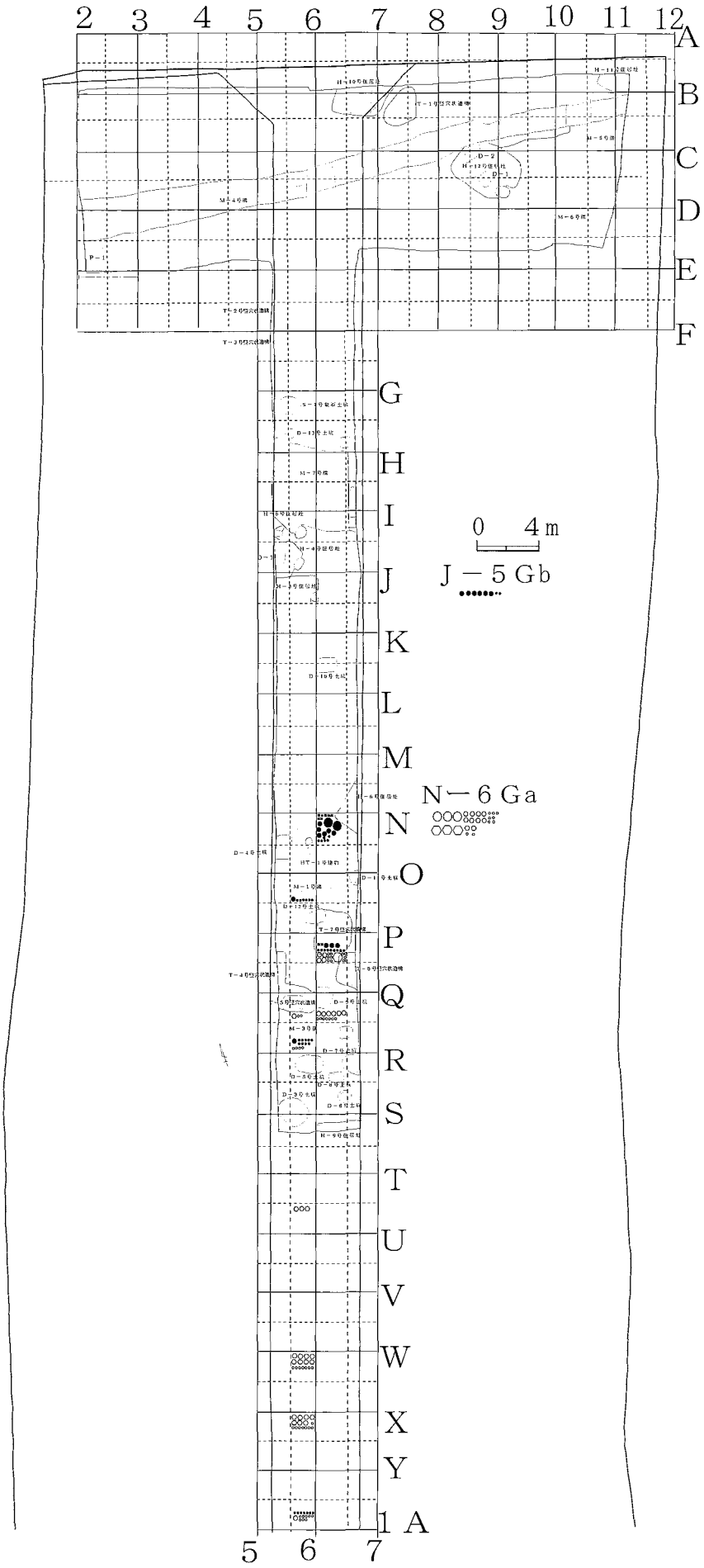


D－8号土坑

第25図　M－7号溝・土坑出土土器実測図



第26図　遺構外出土土器・古銭実測図



第27図　グリッド別遺物分布図

V　成果と問題点

1　地尻Ⅲ遺跡で出土した土器の編年について（第28図・第29図）

地尻Ⅲ遺跡ではさまざまな遺構が検出されたが互いの遺構の切り合い関係をみると、Ｈ－４号住居址→Ｈ－３号住居址、Ｍ－７号溝→Ｈ－５号住居址、Ｈ－ 10 ａ号住居址→Ｈ－ 10 ｂ号住居址、Ｍ－６号溝→Ｈ－ 12 号住居址→Ｍ－４号溝、Ｈ－ 11 号住居址→Ｍ－４号溝となっている。

一方、地尻Ⅲ遺跡で出土した土器は土師器と須恵器である。器種的にみると、土師器は坏と甕のみで、須恵器は坏、高台付碗、長頸壺、甕、円面硯と器種がバラエティーに富んでいる。ここで胴部が削り調整でくの字口縁の土師器甕を甕ａ、胴部が削り調整でコの字口縁の土師器甕ｂとする。土師器坏は丸底で口縁が短く外反する坏ａしかない。須恵器坏は、平底で口縁が外傾するものを坏Ａ、平底で口縁が垂直気味に立ち上がるものを坏Ｂ、上げ底気味で口縁が外傾するものを坏Ｃ、上げ底気味で口縁が外反するものを坏Ｄとする。須恵器高台付碗は、高台を貼り付け上げ底気味で口縁が外傾するものを高台付碗Ａ１、高台を貼り付け上げ底気味で口縁が垂直に立ち上がるものを高台付碗Ａ２、高台を貼り付け上げ底気味で口縁が外反するものを高台付碗Ａ３、高台を削り出すものを高台付碗Ｂとする。この器種分類に基づき、同一遺構内の共伴関係や先ほどの遺構同士の切り合い関係に従って出土した土器を並べてみると、第 28 図・第 29 図のようになる。

この土器の変遷からＨ－ 10 ａ号住居址が第１期に、Ｈ－４号住居址が第２期に、Ｈ－３号住居址が第３期に、Ｈ－ 12 号住居址が第４期に、Ｈ－６号住居址が第５期に各々区分することができる。さらに、器形や調整方法からＨ－ 10 ａ号住居址の坏ａは坂口・三浦編年（坂口・三浦　1986）の第Ⅶ段階（９世紀第１四半期、地尻Ⅲ遺跡第１期）、Ｈ－４号住居址が第Ⅷ段階（９世紀第２四半期、地尻Ⅲ遺跡第２期）、Ｈ－３号住居址が第Ⅸ段階（９世紀第３四半期、地尻Ⅲ遺跡第３期）、Ｈ－ 12 号住居址が第Ｘ段階（９世紀第４四半期、地尻Ⅲ遺跡第４期）、Ｈ－６号住居址が第ＸＩ段階（10 世紀前半、地尻Ⅲ遺跡第５期）に相当と考えられる。また、同様にＨ－ 10 ｂ号住居址は第Ⅸ段階（９世紀第３四半期、地尻Ⅲ遺跡第３期）に相当すると考えられる。

2　地尻Ⅲ遺跡の性格について

地尻Ⅲ遺跡は検出された遺構や出土遺物から奈良・平安時代の集落遺跡であると推測される。一方、Ｍ－４号溝で出土した円面硯、転用硯と考えられる灰釉陶器蓋、各遺構から出土した布目瓦の存在から周辺（特に北側）に公的な施設が存在したことを推測させる。そして、Ｍ－７号溝は幅約５ｍ、深さ 1.25 ｍを測る。幅が約５ｍと広いことや土層の堆積状態から、用水路ではなく何らかの施設を区画する溝であると考えられる。さらに、その方向は植松・地尻遺跡の柵列の方向と一致する（井上　2005）。

さて、地尻Ⅲ遺跡の北約 100 mに位置する植松・地尻遺跡からは大型掘立柱建物址群が検出された。この建物址群の北側で柵列を検出したが、植松・地尻遺跡の北約 50 mのところで九十九川の段丘崖となっているので、この柵列が建物址群の北の端と推測される。この柵列から地尻Ⅲ遺跡のM－７号溝は約 100 m離れており、つまり、およそ１町ほど離れている。すなわち、植松・地尻遺跡で検出された大型掘立柱建物址群の区画（おそらく正倉域）は植松・地尻遺跡の南側に広がっており、当時の施設の区画は１町四方であると考えられるので、その南端が地尻Ⅲ遺跡のM－７号溝であると想定される。植松・地尻遺跡の柵列の方向とM－７号溝の方向が一致するのもこれを裏付けていると考えられる。もし仮にそうだとすると、M－７号溝の北側に存在したH－ 10 号住居址～H－ 12 号住居址及びT－１号竪穴状遺構などはM－７号溝が埋まってから造られたということになる。H－ 10 号ａ住居址は出土した土師器坏（地尻Ⅲ遺跡第１期）から８世紀後半の遺構と推測されるがM－７号溝はH－10　ａ号住居址が造られた頃にはその機能を失っていたと考えられる。したがって、地尻Ⅲ遺跡第１期以前にM－７号溝は機能を失っていたと想定される。

参考文献

坂口　一・三浦京子　　1986　「奈良・平安時代の土器の編年ー住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討ー」『群馬県史研究２４』18～55

中沢　悟　1997　『矢田遺跡Ⅶ』　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

鈴木公雄　1999　『出土銭貨の研究』　東京大学出版会

鈴木公雄　2002　『銭の考古学』　吉川弘文館

永井久美男　2002　『新版　中世出土銭の分類図版』　高志出版

2002　『季刊考古学第 78 号　特集　出土銭貨研究の最前線』　雄山閣

桜木晋一　2009　『貨幣考古学序説』　慶応義塾大学出版会

大工原　豊・千田茂雄　1988　『野殿北屋敷・西殿遺跡』　安中市教育委員会

千田茂雄　1990　『西町・谷津遺跡』　安中市教育委員会

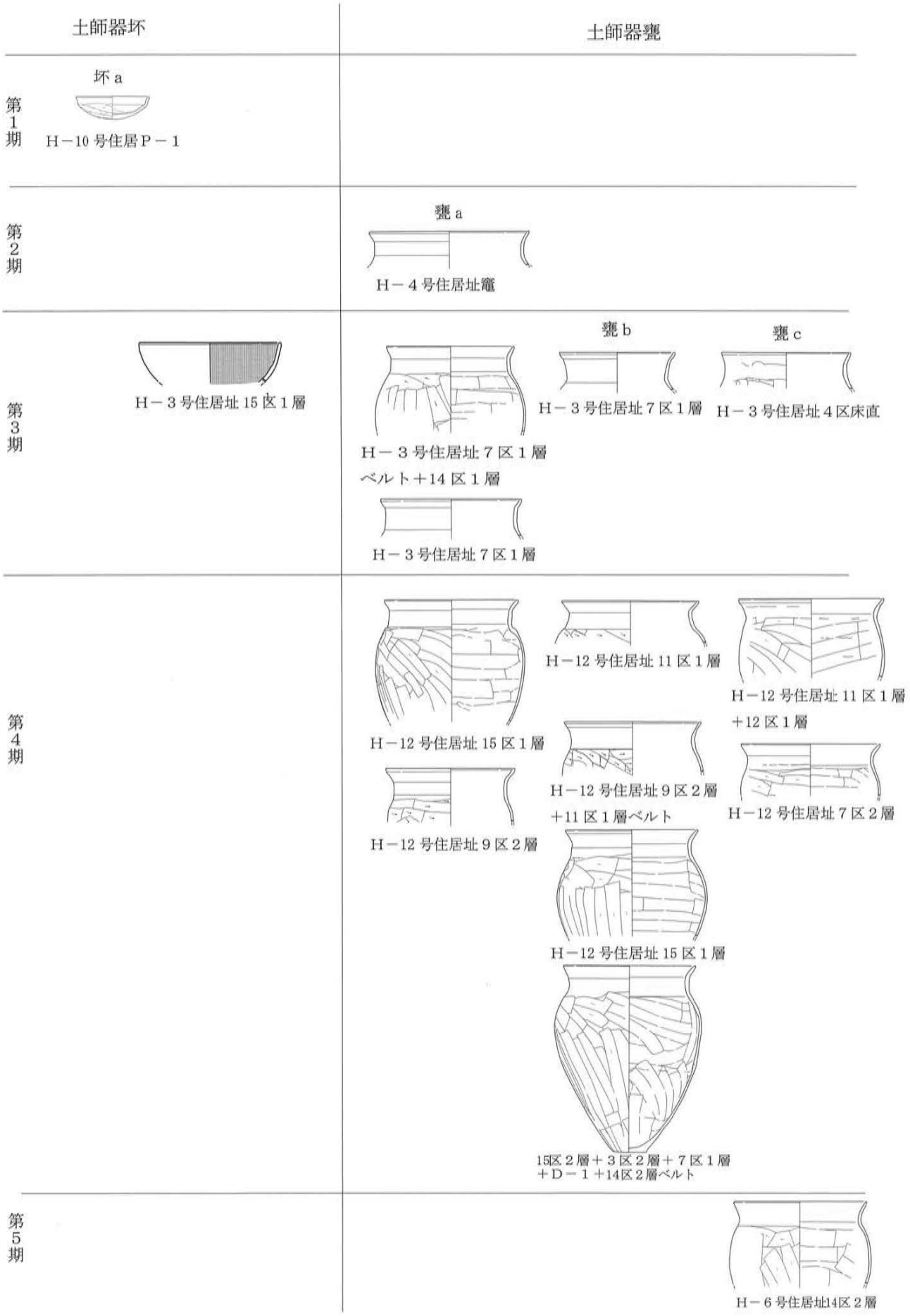
千田茂雄　1991　『地尻遺跡・地尻Ⅱ遺跡』　安中市教育委員会

大工原　豊　1999　『堀谷戸遺跡』　安中市教育委員会

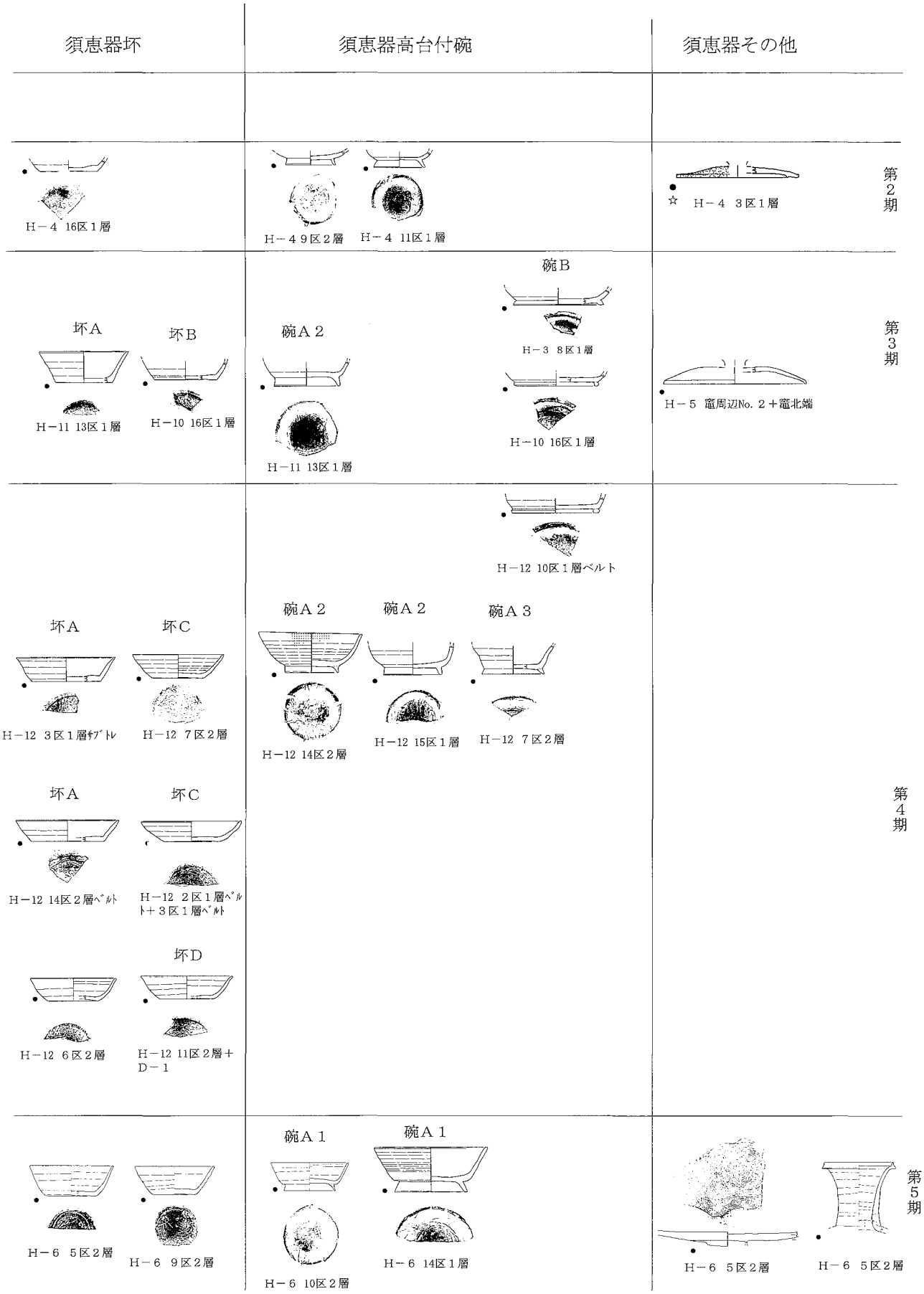
安中市史編さん委員会　2001　『安中市史　第４巻　原始古代資料編』　安中市史刊行委員会

井上慎也　2005　『植松・地尻遺跡』　安中市埋蔵文化財発掘調査団

井上慎也　2006　『蔵畑Ⅱ遺跡』　安中市埋蔵文化財発掘調査団



第28図　出土土器編年図（1）



第29図　出土土器編年図（2）

遺構名	平面形態	規模			床面	竈			土坑	主軸方向	時期
		長軸	短軸	深さ		位置	構造	主軸方向	(床下)		
H－3	中形縦長長方形？	－	－	0.06m		東	ローム	N－144° －E	－	－	
H－4	中形正方形？	－	－	0.13m		東	ローム	N－154° －E	○	N－154° －E	
H－5	不明	－	－	0.09m		東	ローム	N－21° －E	－	N－153° －E	
H－6	中形正方形？	－	－	0.14m		－	－	－	－	N－54° －E	
H－9	不明	－	－	0.40m		－	－	－	－	－	
H－10a	小形長方形	－	2.6m	0.26m	貼床	東	ローム		－	N－28° －E	
H－10b	中形長方形	－	3.0m	0.08m		－	－	－	－	N－33.5° －E	
H－11	不明	－	－	0.20m		－	－	－	－	N－44° －E	
H－12	中形縦長方形	4.28m	3.36m	0.19m	貼床	東南	ローム、石	N－144.5° －E	○	N－93.5° －E	
HT－1	小形長方形	2.6m	1.65m	－	－	－	－	－	－	N－112.5° －E	
T－1	小形隅丸三角形	2,08m	2.08m	0.12m		－	－	－	－	N－51.5° －E	
T－2	小形長方形？	－	－	0.20m		－	－	－	－	N－22° －E	
T－3	小形長方形？	－		0.16m		－	－	－	－	N－107.5° －E	
T－4	小形長方形？	－	－	0.17m		－	－	－	－	N－19° －E	
T－5	小形縦長長方形	－	1.8m	0.36m		－	－	－	－	N－116° －E	
T－6	小形正方形	－	2.40m	0.35m		－	－	－	－	N－111° －E	
T－7	小形隅丸長方形	3.00m	2.44m	0.15m		－	－	－	－	N－24° －E	

第３図　住居址・竪穴状遺構観察表　大形：６m以上　中形：４～６ｍ　小形：４m以下

遺構名	長さ(m)	上最大幅(m)	下最大幅(m)	深さ (m)	主軸方向
M－１号溝	(5.48)	1.34	0.94	0.52	N－68° －W
M－３号溝	(5.48)	1.04	0.84	0.62	N－68° －W
M－４号溝	(37.42)	2.75	0.54	0.49	N－97.5° －E
M－５号溝	(3.92)	1.44	1.14	0.3	N－105.5° －E
M－６号溝	(8.44)	1.52	0.58	0.72	N－116.5° －E
M－７号溝	(5.54)	5.1	4.1	1.25	N－59.5° －W

第４表　溝観察表

遺構名	平面形態	断面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	主軸方向
D－３	楕円形	碗状	2.1	1.78	0.66	N－26.5° －W
D－４	隅丸方形	碗状	1.06		0.6	N－110° －E
D－５	隅丸方形	碗状	1.88	1.24	0.45	N－108° －E
D－６	楕円形	皿状	0.96	0.88	0.15	N－109° －E
D－７	楕円形か	袋状		1.48	0.34	N－109° －E
D－８	隅丸方形	碗状	0.98	0.72	0.3	N－105.5° －E
D－９	台形	碗状	1.4	1.04	0.52	N－22.5° －E
D－10	隅丸方形	皿状	1.38	0.98	0.31	N－108° －E
D－11	楕円形	皿状		0.98	0.25	N－65° －W
D－12	隅丸方形	皿状	1.56	0.92	0.2	N－108° －E
D－13	楕円形	皿状	0.67	0.63	0.19	N－70.5° －E
S－１	楕円形	碗状	1.48	1.2	0.63	N－58.5° －E

第５表　土坑観察表

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器　種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残	成・整形技法の特徴	時期
第20図	1	H－3	15区1層	黒色土器 碗	口径 (17.6) 底径 － 残存高 5.6	①酸性 ②橙色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部	外面 轆轤整形。 内面 口縁部横撫、体部篦磨き。黒色処理。	
	2	H－3	15区1層	須恵器 坏	口径 － 底径 (7.7) 残存高 1.4	①還元 ②青灰色 ③黒色粒・白色粒 ④体部下位～底部	外面 底部右回転糸切り痕。	
	3	H－3	8区1層	須恵器 高台付碗	口径 － 底径 (12.4) 残存高 2.0	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量 ④体部下位～高台	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り。	
	4	H－3	7区1層＋14区1層	土師器 甕	口径 19.0 底径 － 残存高12.8	①酸性 ②明赤褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 ④口縁部～体部	外面 口縁部横撫、体部削り。 内面 口縁部横撫、体部篦撫で。	
	5	H－3	7区1層	土師器 甕	口径 (21.1) 底径 － 残存高 5.5	①酸性 ②赤褐色 ③黒色粒・白色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫。 内面 口縁部横撫。	
	6	H－3	7区1層	土師器 甕	口径 (17.3) 底径 － 残存高 5.5	①酸性 ②橙色 ③黒色粒・白色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫、体部篦削り。 内面 口縁部横撫、頸部轆轤整形。	
	7	H－3	4区床直	土師器 甕	口径 11.4 底径 － 器高 2.5	①酸性 ②橙色 ③黒色粒・白色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫。 内面 口縁部横撫。	
	8	H－3	攪乱	土師器 甕	口径 (11.8) 底径 － 器高 3.8	①酸化 ②明赤褐色 ③黒色粒・黒雲母・石英 ④口縁～体部上位	外面 口縁部横撫、体部篦削り。 内面 口縁部横撫。	
	9	H－3	8区1層	布目瓦	厚 (2.0)	①硬質 ②明青灰色 ③砂粒・黒色粒 ④破片	上面 篦撫で 下面 布目痕	
	10	H－3		布目瓦	厚 1.5	①硬質 ②暗青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④破片	上面 篦撫で 下面 布目痕	
	11	H－4	16区1層	須恵器 坏	口径 － 底径 (8.4) 残存高 1.5	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量・黒色粒 ④体部下位～底部	外面 轆轤整形。 底部回転篦切り。 内面 轆轤整形。	
	12	H－4	9区2層	須恵器 高台付碗	口径 － 底径 (7.0) 残存高 2.0	①還元 ②青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～高台	外面 底部右回転糸切り痕。	
	13	H－4	11区1層	須恵器 高台付碗	口径 － 底径 (7.7) 器高 2.0	①還元 ②青灰色 ③砂粒・白色粒・黒色粒 ④体部下位～高台	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。	
	14	H－4	16区床直	須恵器 蓋	口径 15.0 底径 － 残存高 1.3	①還元 ②暗青灰色 ③砂粒・白色粒多量・黒色粒 ④天井部～口縁部	外面 口縁部横撫、自然釉。 内面 口縁部横撫。	
	15	H－4	竈	土師器 甕	口径 (24.0) 底径 － 器高 5.0	①酸化 ②橙色 ③白色粒・黒色粒・黒雲母 ④口縁～頸部	外面 口縁部横撫。 内面 口縁部横撫。	
第21図	1	H－5	15区1層	須恵器 坏	口径 6.2 底径 4.4 器高 3.0	①還元 ②明青灰色 ③白色粒 ④口縁部～底部3/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 口縁部横撫。	
	2	H－5	4区1層	須恵器 坏	口径 － 底径 (8.4) 器高 1.6	①還元 ②青灰色 ③白色粒 ④体部～底部	外面 底部右回転糸切り痕。	
	3	H－5	竈東側・M－7号溝3区2層ｻﾌﾞﾄﾚ	須恵器 坏	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 3.4	①還元 ②暗青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/4	外面 横撫、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	4	H－5	3区1層ベルト	須恵器 坏	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 3.4	①還元 ②青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り。 内面 轆轤整形。	
	5	H－5	竈周辺+竈北端	須恵器 蓋	口径 (21.2) つまみ径 － 残存高 2.4	①還元 ②青灰色 ③黒色粒・白色粒 ④天井部～口縁部	外面 轆轤整形。 天井部 轆轤整形	
	6	H－6	5区2層	須恵器 坏	口径 (12.1) 底径 (7.2) 器高 4.5	①還元 ②灰白色～灰色 ③黒色粒 ④口縁部～底部3/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	7	H－6	9区2層	須恵器 坏	口径 11.5 底径 6.1 器高 4.2	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量 ④口縁部～底部2/3	外面 横撫整形、底部右回転糸切り痕。 内面 横撫整形。	
	8	H－6	10区2層	須恵器 高台付坏	口径 11.3 高台径 7.5 器高 4.1	①還元 ②青灰色 ③黒色粒・白色粒・礫 ④口縁～高台5/6	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 口縁部横撫。	
	9	H－6	14区2層	須恵器 高台付坏	口径 (12.0) 底径 (7.2) 器高 3.7	①中性 ②灰白色 ③褐色粒・黒色粒 ④口縁部～高台	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	10	H－6	5区2層	須恵器 長頸壺	口径 10.0 底径 － 残存高 10.4	①還元 ②青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～頸部1/2	外面 口縁部横撫、頸部轆轤整形。 内面 轆轤整形。	
	11	H－6	5区2層	須恵器 高台付盤	口径 － 高台径 3.8 残存高 1.8	①還元 ②暗青灰色 ③白色粒多量 ④坏部	外面 自然釉。 内面 右回転糸切り。	

第6表　遺物観察表（1）

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器　種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残	成・整形技法の特徴	時期
	12	H－6	14区２層	土師器甕	口径 (24.0) 底部径 － 残存高 5.0	①酸化 ②明赤褐色 ③黒色粒 ④口縁～体部上位	外面 口縁部横撫。体部削り。 内面 口縁横撫。	
	13	H－9	P－1	須恵器甕	口径 － 底径 (21.0) 残存高 4.0	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量・黒色粒 ④体部下位～底部	外面 体部篦撫で、底部轆轤整形。 内面 轆轤整形。	
	14	H－10	P－1	土師器坏	口径 11.0 器高 3.4	①酸性 ②橙色 ③白色粒 ④口縁部～底部3/4	外面 口縁部横撫、体部～底部篦削り。 内面 口縁部横撫。体部～底部篦撫で。	
	15	H－10	16区１層	須恵器坏	口径 － 底径 9.2 器高 2.5	①中性 ②灰白色 ③黒色粒 ④体部～底部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	16	H－10	16区１層	須恵器高台付坏	口径 － 底径 － 器高 －	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量・黒色粒 ④体部下位～高台	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り痕、 削りだし高台。 内面 轆轤整形。	
第22図	1	H－11	16区１層	須恵器高台付碗	口径 － 底径 器高	①中性 ②灰白色 ③黒色粒多量 ④体部～高台	外面 体部轆轤整形、底部右回転糸切り痕。	
	2	H－11	13区１層	須恵器坏	口径 (13.0) 底径 (8.3) 残存高 4.5	①中性 ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部～底部	外面 口縁部横撫、底部右回転篦切り痕。 内面 口縁部横撫。	
	3	H－12	14区２層	須恵器坏	口径 (15.0) 底径 (8.0) 残存高 3.0	①還元 ②灰白色 ③黒色粒多量 ④体部下位～底部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	4	H－12	２区１層ベルト＋３区１層ベルト	須恵器坏	口径 (21.1) 底径 － 器高 7.2	①還元 ②青灰色 ③黒色粒多量 ④口縁部～底部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	5	H－12	６区２層	須恵器坏	口径 (12.4) 底径 (7.4) 器高 3.4	①還元 ②灰色 ③白色粒多量・黒色粒 ④口縁部～底部1/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	6	H－12	３区１層	須恵器坏	口径 (12.5) 底径 (8.1) 器高 2.85	①還元 ②明青灰色 ③黒色粒多量・白色粒 ④口縁部～底部1/4	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	7	H－12	11区２層+D－1	須恵器坏	口径 (12.5) 底径 (8.1) 器高 2.85	①還元 ②明青灰色 ③褐色粒 ④口縁部～底部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	8	H－12	７区２層	須恵器坏	口径 13.4 底径 7.6 器高 3.5	①還元 ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部～底部1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	9	H－12	３区１層ｻﾌﾞﾄﾚ＋３区２層	須恵器坏	口径 12.4 底径 6.4 器高 3.0	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量・礫 ④口縁部～底部7/8	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	10	H－12	３区１層ｻﾌﾞﾄﾚ	須恵器坏	口径 － 底径 (6.2) 器高 －	①還元 ②青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部	外面 横撫、底部右回転糸切り。 内面 横撫。	
	11	H－12	14区２層ﾍﾞﾙﾄ	須恵器坏	口径 14.9 底径 7.3 器高 5.4	①還元 ②青灰色 ③黒色粒多量 ④口縁部～底部	外面 横撫、底部右回転篦切り。 内面 横撫。	
	12	H－12	10区２層ﾍﾞﾙﾄ	須恵器坏	口径 14.9 底径 7.3 器高 5.4	①還元 ②青灰色 ③黒色粒多量 ④体部～底部	外面 横撫、底部右回転糸切り。 内面 横撫。	
	13	H－12	３区２層	須恵器坏	口径 (17.0) 底径 7.4 器高 5.7	①還元 ②明青灰色 ③黒色粒多量 ④体部～底部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	14	H－12	10区１層ﾍﾞﾙﾄ	須恵器高台付碗	口径 － 底径 － 器高 －	①還元 ②青灰色 ③白色粒多量・黒色粒 ④体部下位～高台	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り。削りだし高台。内面 轆轤整形。	
	15	H－12	14区２層	須恵器高台付碗	口径 15.1 高台径 7.6 器高 5.8	①還元 ②灰白色～灰黄色 ③黒色粒多量・白色粒 ④口縁部～高台4/5	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	16	H－12	15区１層	須恵器高台付壺	口径 － 底径 (4.5) 器高 2.6	①還元 ②青灰色 ③黒色粒・白色粒・砂粒 ④体部～高台	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り。内面 轆轤整形	
	17	H－12	７区２層	須恵器高台付壺	口径 (23.1) 底径 － 器高 －	①中性 ②灰色～灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④体部～高台	外面 轆轤整形、底部回転篦切り。 内面 轆轤整形。	
	18	H－12	15区１層	土師器甕	口径 (19.9) 底径 － 残存高 12.8	①酸化 ②橙色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部～体部中位1/5	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
第23図	1	H－12	７区２層	土師器甕	口径 (20.8) 底径 － 残存高 7.6	①酸化 ②橙色 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④口縁部～体部上位1/4	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	

第７表　遺物観察表（２）

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器　種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残	成・整形技法の特徴	時期
	2	H－12	11区１層+12区１層	土師器甕	口径 (21.7) 底径 － 残存高 11.6	①酸化 ②明赤褐色 ③白色粒多量・黒色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	3	H－12	９区２層＋11区１層ﾍﾞﾙﾄ	土師器甕	口径(21.2) 底径 － 器高 －	①酸化 ②橙色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	4	H－12	15区１層	土師器甕	口径 (21.2) 底径 － 器高 －	①酸化 ②橙色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～頸部	外面 口縁部横撫で、頸部篦削り。 内面 口縁部横撫で。	
	5	H－12	11区１層	土師器甕	口径 (21.2) 底径 － 器高 －	①酸化 ②にぶい橙色 ③白色粒 ④口縁部～体部上位	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	6	H－12	15区１層	土師器甕	口径 (19.8) 底径 － 残存高 16.0	①酸化 ②明赤褐色 ③白色粒・黒色粒・石英・雲母 ④口縁部～体部中位1/2	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	7	H－12	15区１層	土師器甕	口径 (20.0) 底径 － 残存高 18.2	①酸化 ②橙色 ③黒色粒・礫 ④口縁部～体部中位	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	8	H－12	３区２層+９区２層＋10区２層	土師器甕	口径 － 底径 4.0 残存高 24.6	①酸化 ②橙色 ③白色粒・黒色粒 ④頸部～底部	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	9	H－12	９区２層	土師器甕	口径 14.1 底径 6.1 器高 4.8	①酸化 ②橙色 ③褐色粒 ④口縁部～体部	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	10	H－12	15区２層+３区２層+７区１層＋D-1+14区２層ﾍﾞﾙﾄ	土師器甕	口径 19.6 底径 4.9 器高 28.0	①酸化 ②橙色 ③白色粒・石英・砂粒 ④口縁部～底部2/3	外面 口縁部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	
	11	H－１	12区１層	須恵器坏	口径 － 底径 (7.8) 残存高 2.4	①還元 ②暗青灰色 ③黒色粒・褐色粒 ④体部下位～底部	外面 轆轤撫整形、底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	12	H－15	11区１層	須恵器高台付壺	口径 － 底径 5.5 器高 －	①還元 ②黄灰～灰色 ③白色粒・褐色粒 ④体部中位～底部1/3	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	13	T－１	３区１層	須恵器蓋	口径 (29.2) つまみ径 － 器高 2.5	①還元 ②明青灰色 ③黒色粒多量 ④口縁～天井部中位	外面 轆轤整形、自然釉。 内面 轆轤整形。	
第24図	1	M－４	13区２層	須恵器坏	口径 － 高台径 (7.7)器高	①還元 ②明オリーブ灰色 ③黒色粒 ④体部～高台	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り痕。 内面 轆轤整形。	
	2	M－４	７区２層	須恵器高台付碗	口径 － 高台径 (8.5)器高	①還元 ②灰白色 ③黒色粒 ④体部下位～高台部残存	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	3	M－４	２区２層	須恵器円面硯	口径 (14.4) 底径 － 残存高 2.0	①還元 ②灰黄～灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部	外面 轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤整形。	
	4	M－４	１区２層	布目瓦	厚 1.9	①硬質 ②青灰色 ③白色粒・黒色粒 ④破片	上面 篦撫で 下面 布目痕	
	5	M－４	18区１層	布目瓦	厚 2.1	①軟質 ②明青灰色 ③白色粒・黒色粒・礫 ④破片	上面 撚糸文 下面 布目痕	
	6	M－４	２区２層	布目瓦	厚 1.2	①軟質 ②黄灰色 ③白色粒・黒色粒 ④破片	上面 撚糸文 下面 布目痕	
	7	M－４	６区１層	布目瓦	厚 1.7	①軟質 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④破片	上面 撚糸文 下面 布目痕	
	8	M－４	４区２層	布目瓦	厚 1.8	①軟質 ②灰白色 ③黒色砂、白色粒 ④破片	上面 撚糸文 下面 布目痕	
	9	M－５	１区１層	須恵器坏	口径 － 底径 (8.0)残存高	①中性 ②灰白色 ③黒色粒多量 ④胴部下位～底部1/4	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	
	10	M－５	１区１層	須恵器高台付碗	口径 － 高台径 (9.2)残存高	①還元 ②灰色 ③黒色粒 ④体部～高台	外面 轆轤整形。底部右回転糸切り痕。 内面 轆轤整形。	
	11	M－６	２区２層	須恵器坏	口径 － 底径 (9.0) 器高 1.1	①還元 ②灰色 ③黒色粒 ④体部下位～底部	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り痕。 内面 轆轤整形。	
	12	M－６	２区２層	須恵器坏	口径 － 底径 (9.0) 器高 1.4	①還元 ②灰白色 ③黒色粒多量 ④体部下位～底部	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。	
第25図	1	M－７	６区３層ｻﾌﾞﾄﾚ	須恵器坏	口径 (14.0) 底径 (9.8) 器高 3.9	①中性 ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁～底部	外面 轆轤整形、底部右回転篦切り痕。 内面 轆轤整形。	
	2	M－７	６区３層ｻﾌﾞﾄﾚ	須恵器坏	口径 － 底径 (8.0) 器高 1.4	①還元 ②紫灰色 ③黒色粒多量 ④体部下位～底部	外面 轆轤整形。底部回転篦切り痕。内面 轆轤整形。	

第８表　遺物観察表（３）

挿図No.	番号	遺構名	出土位置	器　種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残	成・整形技法の特徴	時期
	3	M－7	6区2層ｻﾌﾞﾄﾚ	須恵器 高台付碗	口径　－ 底径　7.0 残存高 1.8	①還元　②青灰色　③白色粒多量・黒色粒　④体部下位～高台部残存	外面　轆轤整形、底部右回転篦切り痕。 内面　轆轤整形。	
	4	S－1	上面	須恵器 坏	口径　－ 底径　(5.8) 残存高　1.7	①還元　②灰白色　③黒色粒　④体部下位～底部	外面　轆轤整形、底部回転糸切り痕。 内面　轆轤整形。	
	5	S－1		須恵器 坏	口径　－ 底径 (11.8)残存	①還元　②青灰色　③白色粒・黒色粒多量　④体部下位～底部	外面　轆轤整形、底部回転篦切り痕。 内面　轆轤整形。	
	6	S－1		布目瓦	厚　2.2	①軟質　②灰白色　③黒色粒　④破片	上面　撚糸文　　下面　布目痕	
	7	D－3		須恵器 高台付皿	口径　－ 高台径 (6.0)残存	①還元　②青灰色　③白色粒多量・黒色粒　④皿部～高台	外面　轆轤整形、底部右回転篦切り痕。 内面　自然釉。	
	8	D－10		須恵器 蓋	口径　(8.9) つまみ径　－ 器高　1.9	①還元　②灰色～灰白色　③黒色粒　④口縁～天井部	外面　自然釉。 内面　轆轤整形。	
	9	D－8		須恵器 坏	口径　－ 底径 (6.1)残存	①酸性　②浅黄橙色　③白色粒　④体部下位～底部	外面　轆轤整形、底部右回転篦切り。 内面　轆轤整形。	
第26図	1	N－6Ga		須恵器 坏	口径　(12.2) 底径　(6.5) 器高　3.3	①還元　②灰黄色　③白色粒・黒色粒・礫　④口縁部～底部1/3	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	2	N－7Ga		須恵器 坏	口径　－ 底径　(6.6) 器高　3.8	①還元　②灰色　③白色粒・黒色粒　④底部1/3	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	3	N－6Ga		須恵器 高台付皿	口径　13.5 高台径　6.4 器高　2.25	①還元　②灰黄色～黄灰色　③褐色粒・黒色粒・礫　④口縁部～高台部2/3	外面　轆轤整形。底部右回転糸切り後、周辺撫で。 内面　轆轤整形。	
	4	N－6Ga		須恵器 高台付碗	口径　(15.4) 高台径(7.0) 器高　5.0	①還元　②灰黄色～黄灰色　③褐色粒・黒色粒・礫　④口縁部～高台部1/4	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	5	表採		須恵器 高台付碗	口径　(15.8) 底径　(7.6) 器高　5.6	①還元　②灰白色　③白色粒・黒色粒　④1/5	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	6	表採		須恵器 坏	口径　12.0 底径　7.4 器高　2.7	①還元　②黄灰色　③白色粒・黒色粒　④口縁部～底部1/2	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	7	表採		須恵器 坏	口径　(14.0) 底径　(7.5) 器高　3.9	①還元　②灰色～黄灰色　③褐色粒・白色粒　④口縁部～底部1/3	外面　轆轤整形、右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	8	表採		須恵器 坏	口径　13.1 底径　7.2 器高　3.9	①還元　②灰白～灰色　③白色粒　④口縁部1/3欠損	外面　轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面　轆轤整形。	
	9	N－6Ga		灰釉陶器 蓋	口径(18.0) 天井径 (18.7)残存	①還元　②暗オリーブ色～黄灰色　③白色粒・黒色粒　④天井部～口縁部1/2	外面　轆轤整形。灰釉。内面　轆轤整形。天井部に磨きすれがある。転用硯。	
	10	表採		布目瓦	厚　1.7	①硬質　②青灰色　③黒色粒　④破片	上面　篦撫で　下面　布目痕	
	11	D－11		宋銭	直径 2.3cm 重量 4.0g	「？？元宝」（2字判読不能）	完形、	
	12	D－11		宋銭	直径 2.2cm 重量 2.5g	「天祐通宝」、1086年		
	13	D－11		宋銭	直径 2.2cm 重量 2.5g	「景徳元宝」、1004年		
	14	M－3	3区1層	宋銭	直径 2.2cm 重量 2.5g	「元豊通宝」、1078年	完形	
	15	M－3	3区1層	宋銭	直径 2.2cm 重量 2.4g	「熙寧重宝」、1071年		
	16	M－3	3区1層	宋銭	直径 2.2cm 重量 2.9g	「熙寧通宝」、1068年	完形	

第9表　遺物観察表（4）

Ⅵ　安中市地尻Ⅲ遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

１．はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで、年代が不明な遺構が検出された地尻Ⅲ遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析を行って示標テフラの層位を把握し、遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、Ｍ－４号溝（南）西壁、Ｍ－４号溝（北）西壁、Ｍ－４号溝東壁およびＭ－１号溝西壁の４地点である。

２．土層層序

（１）Ｍ－４号溝（南）西壁

Ｍ－４号溝（南）西壁における溝の覆土は、下位より黄色軽石混じり暗褐色土（層厚17cm、軽石の最大径15mm）、砂を多く含む黒褐色土（層厚22cm）、黄褐色土ブロック混じり暗褐色土（層厚８cm）、黒褐色土（層厚42cm）、白色軽石混じり暗褐色土（層厚49cm、軽石の最大径13mm）からなる（図１）。これらのうち、最下位の土層中に含まれる黄色軽石はよく発泡しており、その岩相から約1.3～1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井 1962、町田・新井 1992）に由来していると考えられる。

（２）Ｍ－４号溝（北）西壁

Ｍ－４号溝（北）西壁における溝の覆土は、黒褐色土（層厚22cm）からなる（図２）。

（３）Ｍ－４号溝東壁

Ｍ－４号溝東壁における溝の覆土は、下位よりAs-YPに由来する黄色軽石混じり黒褐色土（層厚35cm、軽石の最大径７mm）と暗褐色土（層厚27cm）からなる（図３）。

（４）Ｍ－１号溝西壁

Ｍ－１号溝西壁における溝の覆土は、下位より黒褐色土（層厚29cm、２層）、As-YPに

由来する黄色軽石混じり暗褐色土（層厚22cm、軽石の最大径５mm、１層）、暗褐色土（層厚17cm）、白色軽石混じり暗褐色土（層厚21cm、軽石の最大径６mm）、白色軽石混じり暗褐色表土（層厚39cm、軽石の最大径７mm）からなる（図４）。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

テフラの降灰層準を把握するために、Ｍ－４号溝（南）西壁およびＭ－４号溝（北）西壁の２地点において採取された試料のうち、12点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は、次の通りである。

１）試料10gを秤量。
２）超音波洗浄により泥分を除去。
３）80°Cで恒温乾燥。
４）実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。量に多少の違いは認められるものの、いずれの試料からも比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径6.2mm）が、検出された。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料19や17には、よく発泡した黄色軽石（最大径5.3mm）が少量含まれているが、これはその特徴からAs-YPに由来すると考えられる。試料１には、光沢をもち良く発泡した白色軽石（最大径3.5mm）が少量含まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴から1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A、荒牧　1968、新井 1979）に由来すると考えられる。したがって、Ｍ－１号溝西壁の上部の土層中に含まれる白色軽石についても、As-Aに由来すると考えられる。Ｍ－４号溝（北）のいずれの試料からも、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径6.2mm）が比較的多く検出された。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

４．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

試料中に含まれる淡褐色軽石の起源を求めるために、Ｍ－４号溝（南）西壁の試料19とＭ－４号溝（北）西壁の試料４の２点について、温度一定型屈折率測定法（新井　1972、1993）により屈折率の測定を行った。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を表２に示す。Ｍ－４号溝（南）西壁の試料19に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.528～1.533である。重鉱物としては斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（γ）の屈折率は1.707～1.710である。またＭ－４号溝（北）西壁の試料４に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.528～1.533である。重鉱物としては斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（γ）の屈折率は1.707～1.710である。

５．考察

Ｍ－４号溝（南）西壁の試料19およびＭ－４号溝（北）西壁の試料４に含まれる淡褐色軽石は、その特徴から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As-B、荒牧　1968、新井　1979）に由来すると考えられる。いずれの地点においても、最下位の土層中にAs-B起源の粒子が含まれており、その顕著な濃集層準は認められなかった。このことから、溝構築後にAs-Bの除去が行われていない限り、溝の層位はAs-Bより上位にある可能性が高いと思われる。またＭ－４号溝（南）西壁では、最上位の土層にAs-Aが含まれていること、またＭ－４号溝（北）西壁の覆土中からはAs-A起源の軽石が検出されなかったことなどから、いずれもAs-Bより下位にあると考えられる。

６．まとめ

地尻Ⅲ遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、浅間Ｂテフラ（As-B、1108年）や浅間Ａ軽石（As-A、1783年）などに由来するテフラ粒子を検出することができた。発掘調査で検出されたＭ－４号溝（南）やＭ－４号溝（北）の層位は、溝構築後にAs-Bの除去が行われていない限り、As-Bより上位でAs-Aの下位にある可能性が高いと推定される。

参考文献

新井房夫　1962　「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10，p. 1-79.

新井房夫　1972　「斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定ーテフロクロノロジーの基礎的研究」『第四紀研究』11，p.254-269.

新井房夫　1979　「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『 考古学ジャーナル』No.53，p.41-52.

新井房夫　1993　「温度一定型屈折率測定法」、日本第四紀学会編『第四紀試料分析法ー研究対象別分析法』 p.138-148.

荒牧重雄　1968　「浅間火山の地質」『地団研専報』No.45，65p.

町田　洋・新井房夫　1992　『火山灰アトラス』東京大学出版会，276p.

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
M-4号溝（南）	1	＋＋	淡褐＞白	4.1,3.5
西壁	3	＋＋	淡褐	4.8
	5	＋＋	淡褐	4.2
	7	＋＋	淡褐	4.1
	9	＋＋	淡褐	4.2
	11	＋	淡褐	4.0
	13	＋＋	淡褐	6.2
	15	＋＋＋	淡褐	6.0
	17	＋＋	淡褐＞黄	4.1,5.3
	19	＋＋	淡褐＞黄	4.2,3.8
M-4号溝（北）	2	＋＋	淡褐	6.2
西壁	4	＋＋	淡褐	5.3

表１　テフラ検出分析結果

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，－：認められない．最大径の単位は，mm.

地点	試料	火山ガラス（n）	重鉱物	斜方輝石（γ）
Ｍ－４号溝（南）西壁	19	1.528-1.533	opx>cpx	1.707-1.710
Ｍ－４号溝（北）西壁	4	1.528-1.533	opx>cpx	1.707-1.710

表２　屈折率測定結果

屈折率の測定は，温度一定型測定法（新井，1972，1993）による．opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石．

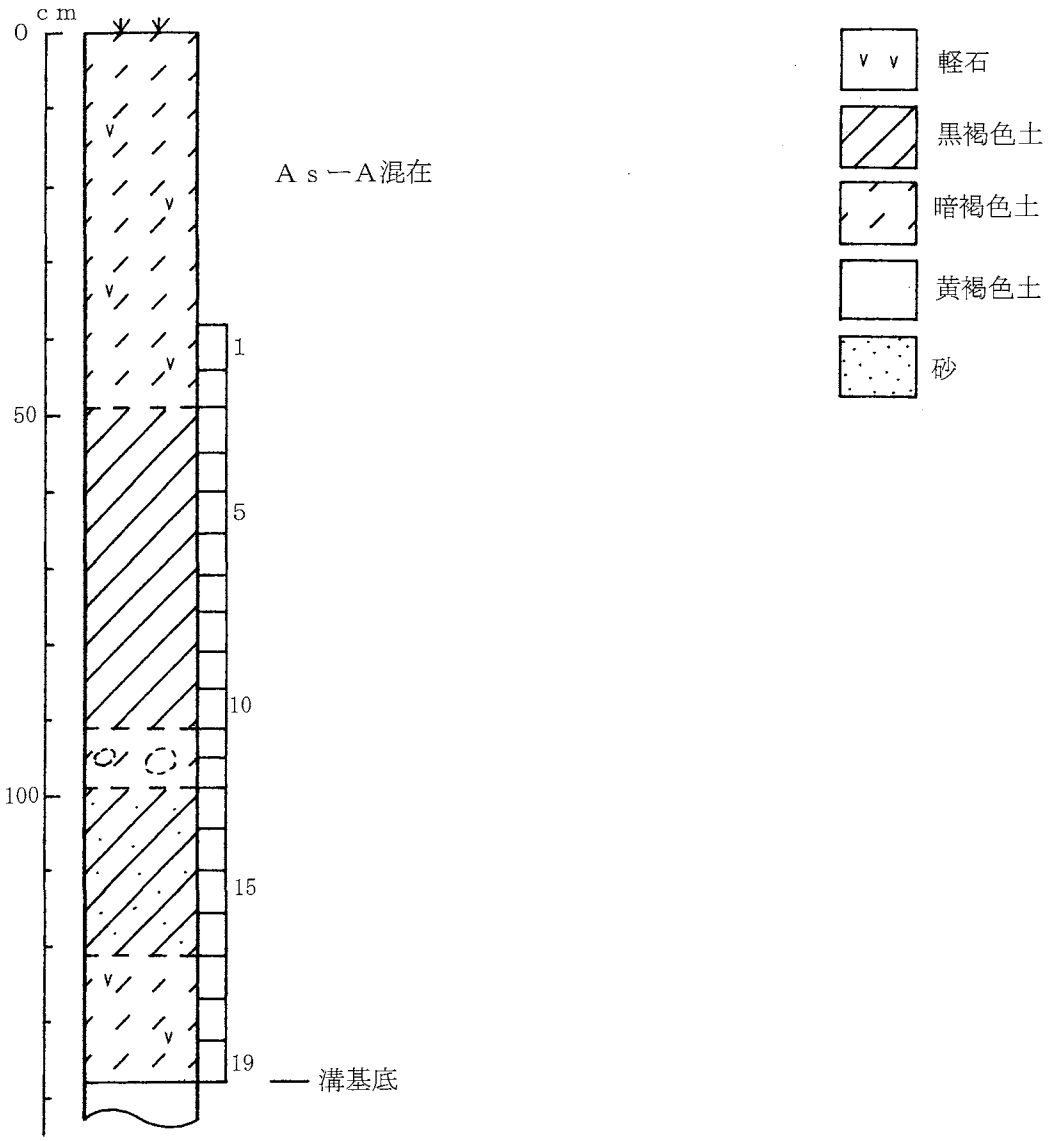


図１　Ｍ－４号溝西壁（南側）の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

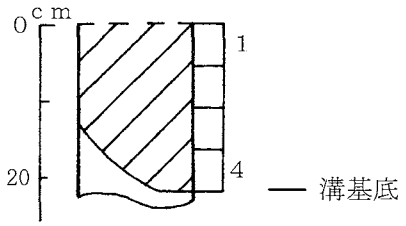


図２　Ｍ－４号溝西壁（北側）の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

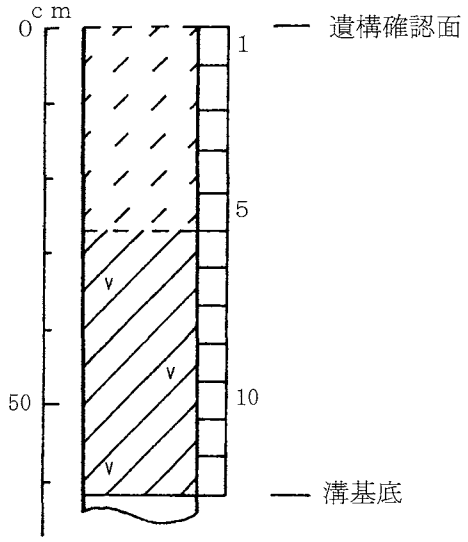


図３　Ｍ－４号溝東壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

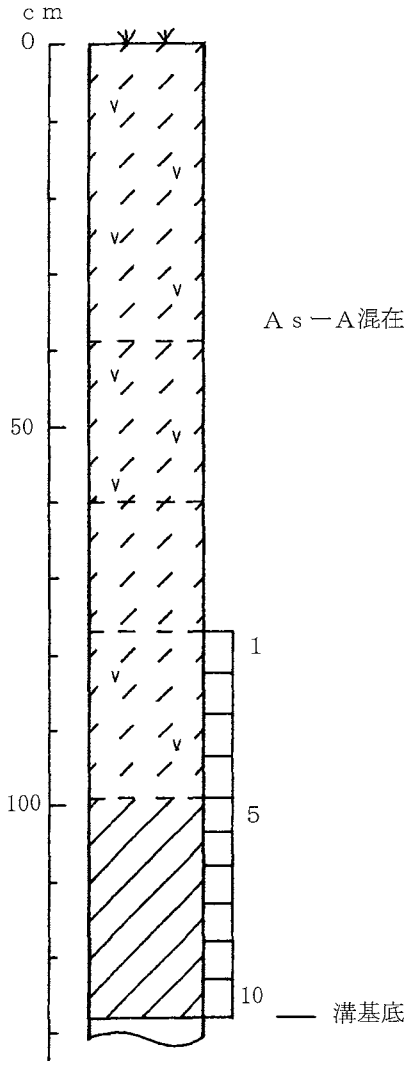


図４　Ｍ－１号溝西壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	ちじりさんいせき
書　名	地尻Ⅲ遺跡
副書名	安中住宅団地分譲に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	深町　真
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀245（安中市教育委員会内）　TEL　027-382-1111
発行年	西暦2009年（平成21年）12月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
地尻Ⅲ遺跡（ちじり）	安中市安中字地尻	102113	D－16	36° 19′ 39″	138° 52′ 21″	20000904 ～ 20000920	2,000㎡	住宅団地分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
地尻Ⅲ遺跡	集落	奈良・平安時代	竪穴住居址　8 竪穴状遺構　7 土坑　10 溝　5	土師器・須恵器 宋銭	

地 尻 Ⅲ 遺 跡

―安中住宅団地分譲に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　　平成21年12月28日

編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245

印　　刷　　株式会社川島精版
群馬県前橋市大渡町一丁目９番地９